

参考資料

第25採択地区教科用図書採択協議会専門員

令和7年度使用教科用図書研究調査報告書

【中学校】

1	国語	1	～	4
2	書写	5	～	8
3	地理	9	～	14
4	歴史	15	～	23
5	公民	24	～	29
6	数学	30	～	36
7	理科	37	～	41
8	音楽・器楽	42	～	45
9	美術	46	～	48
10	保健体育	49	～	52
11	技術・家庭（技術分野）	53	～	55
12	技術・家庭（家庭分野）	56	～	58
13	英語	59	～	64
14	道德	65	～	71

令和6年7月25日（木）

令和6年度第2回第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（国語科）

項目	新編 新しい国語 （2・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○キーワードは、「言葉の力」。各単元の「見通す」で、学習の見通しをもち、「振り返る」で、学習を振り返るとともに、次の学習への展望が示され、生徒が主体的に学習に取り組める仕組みとなっている。 ○教材数は、全学年で「話すこと・聞くこと」9、「書くこと」14、「読むこと」49、「言語（知識及び技能）」52である。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○親しみやすい会話による例文やイラストで導入を示した後に、基本的な問題に取り組ませる構成である。 ○「言葉をひろげよう」では、1,870語の意味や用例を確認することができる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○多様なテーマをもとに題材が選出されている。 ○「学びを支える言葉の力」が、領域の関連深い教材の前後に配置され、前段階で学習した内容をさらに深めたり、次の学習に生かしたりしている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「言葉の力一覧」に、1年間の学習見通しが示されている。 ○朗読動画や解説動画など、個別最適な学びを実現するべく、QRによるコンテンツが充実している。
	資料 ○古典と現代とのつながりが感じられるよう、親しみやすい教材をもとに解説文や手引き、資料に工夫がなされている。 ○QRコンテンツが、1年に143、2年に142、3年に130あり、個別最適な学びの支援となっている。
	表記表現 ○色の違いで内容を区別する場合には、必ずマークや文字情報が加えられ、色以外の要素でも区別がしやすい。 ○筆遣いや字体を、書き文字に近づけた特別な明朝体を採用している。
総括	学びの過程が「見通し」から「振り返り」まで、丁寧に示されており、学習者にとって、思考の流れや学習過程が視覚化される工夫がなされている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（国語科）

項目	現代の国語（15・三省堂）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得のために「学びの道しるべ」と称した学習のプロセスを教材ごとに明示している。 ○単元数は、全学年で、20。教材数は、「話すこと・聞くこと」15、「書くこと」19、「読むこと」49、「言語（知識及び技能）」23である。	
特色	内容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「読み方を学ぼう」では、汎用的な読み方を学び、基礎的・基本的な学力をつける工夫がされている。 ○資料編「語彙の広がり」では、語句どうしの関係やつながり方に着目する教材が取り上げられている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○日常生活や現代社会における課題を取り上げ、対話を通して考えたり、問題解決したりする機会と場が充実している。 ○「思考の方法」を活用し、文章が比較・分類・具体化・抽象化に整理され、図解で分かりやすく示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○各教材の冒頭に「つきたい力」として、学習目標を提示するとともに、教材の最後には、学習の振り返りを設け、自分で診断・評価し、次の学びに生かせるように工夫されている。
	資料	○「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」の三系統から資料がまとめられている。 ○課題作文や QR コンテンツを活用した学習により、個別最適な学びとなるような工夫がなされている。
	表記表現	○見開きで完結するレイアウトが多い。情報を一覧することができる工夫がある。 ○学習の手順を上段に、学習のポイントや参考となる情報を下段に示すなど、スムーズな学びを手助けする構成となっている。
総括	巻頭に「領域別教材一覧」があり、教材ごとに、つきたい力が示され、学習指導要領との関連が明確になっている。小学校からの接続に配慮され、無理なく段階的に国語の力が伸ばせるように全体が構成されている。	

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（国語科）

項目	伝え合う言葉 中学国語 （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○ 目標と共に「学びナビ」が、本文や学習活動の前にあることで、目的意識をもって、学習に取り組むことができる。また、目標に即した「振り返り」が設定されており、次の学びにつなげることもできる。 ○ 単元数は、全学年で、26。教材数は、「話すこと・聞くこと」15、「書くこと」18、「読むこと」56、「言語（知識及び技能）」30である。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○ 全国学力学習状況調査を踏まえ、社会で求められる力を育成する問いがある。 ○ 今を生きる生徒が古典に親しめるよう、巻末の「言葉の自習室」で、別の章段を掲載するなど、作品への理解が深まるようにしている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○ 教材の初めに「学びナビ」を設け、どのような思考力を働かせると効果的かという活動を図解・解説し、視覚化・明確化することで学習の焦点を定めている。 ○ 「みちしるべ」の中で、捉える→深める→自分の考えを伝えあう という、学習の流れを示している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○ 独自の教材として「総合（SDGs）持続可能な未来を創るために」「情報・メディアと表現」「学びのチャレンジ」を取り上げ、ものの見方・考え方を広げる工夫がなされている。
	資料 ○ 「学びリンク」というコンテンツにより、ウェブサイトを通し、教材にかかわる資料などを見ることができる。
	表記表現 ○ 色覚の個人差を問わず、形の上でも、区別しやすい工夫がなされるなど、より多くの人に見やすいデザインが採用されている。
総括	多岐にわたる教材を選定し、多くの文章に触れる機会や言語活動が設定されている。「学びナビ」を活用することで、単元で身に付ける汎用的な力が明確になり、指導事項が一貫している。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（国語科）

項目		国語（38・光村）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「学びのカギ」に、身に付けるべき国語の資質・能力が視覚化され、巻末の『「学びのカギ」一覧』や「学びの地図」を活用しながら、社会生活における課題解決に役立つ工夫がみられる。 ○単元数は、全学年で、24。教材数は、「話すこと・聞くこと」19、「書くこと」23、「読むこと」59、「言語（知識及び技能）」34である。
特色	内容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」など、学習過程が明確に示され、生徒が「どのように学ぶのか」を理解する手助けとなっている。 ○生徒が必要に応じて語句を増やし、語感を磨けるよう、本編と資料編の間に「語彙ブック」が設けられている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○「学び扉」を活用することで、思考の流れが可視化されるなど、見通しをもった学習を行うことができる。 ○「話す・聞く」の単元において、QRコンテンツにより、話し合いをしている場面を視覚的に捉え、日常の言語活動の質を高められる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○表現活動において、「達人からのひと言」が設定され、生徒が学びの有効性を感じながらキャリア教育にもつながる配慮がなされている。 ○「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」において、よくある「困った場面」を出発点に学習することで、主体的な取り組みとなるよう工夫されている。
	資料	○3年間で、350以上のQRコンテンツが集録されている。「国語の力試し」CBTや「書くことのミニレッスン」など、書き込み可能なデジタル教材も、多数収録されている。
	表記表現	○生徒の発達段階や可読性を考慮した字詰め、行詰めがなされており、漢字の読み仮名や読書案内などの小さな文字は、読みやすいUD書体を使用している。
総括		「課題を発見し、解決するための言葉の力」をテーマに、全領域に「学びのカギ」を設けて、領域を超えた学びのつながりが明確になっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

教科名（書写）

項目	新編 新しい書写 (2・東書)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学年ごとに編集されている。1年で「身につける」、2年で「使い分ける」3年で「使いこなす」と明記され、学習段階がわかりやすく示されている。 ○「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返ろう」で目標への迫り方を順序だてて示している。 ○ほとんどのページに QR コードがついており、自分のペースで復習できるよう工夫されている。
特色	内容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞（例） ○毛筆における筆の運びがより具体的にイメージできるよう、「とん」「すう」「ぴた」などの語を用い、朱墨と薄墨で穂先の通り道を示している。 ○行書に特徴的な四つの動き（P26,27）が示され、他の單元でも同じマークを用いて四つのうちのどの動きを使うのかわかるよう工夫されている。 ○書写テストにより、知識面での理解度を見ることができる。 ○全編で4回書写テストがある。コラム『文字のいずみ』が充実しており、日本文化に即した言葉の豊かさなどが示されている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞（例） ○「生活に広げよう」で学んだことを生活にどのように生かせるかを具体的に考えさせている。 ○書写で学んだことをキャリア学習や他教科のノートに生かすなど、すぐに実践できる活動内容が盛り込まれている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞（例） ○ICT化が進む中、「文字を『書く』って、なんだろう」という問いをはじめに示し、文字を書くことの意義を考えさせ、主体的な学びにつなげている。 ○「書写活用ブック」で様々な書式（手紙・新聞・リーフレット・ポスター等）を学ぶことで生活に活用できる書写力の育成を促している。
	資料 ○「書写活用ブック」では書写の学習が生かせる実用的な場面が示されている。また、情報を適切に伝えるための手段・方法が工夫されている。 ○巻末資料として人名用漢字表の楷書と行書を示し、自分で自分の名前を書くときに参考にできるようにしている。
	表記表現 ○イラストが多く、ポイントが吹き出しに太字で記されている。 ○生徒目線での疑問や気を付けることが記されており、共感しながら学習を進める工夫がある。 ○「書写のかぎ」をみれば目標に対してのポイントがわかるようになっている。 ○手本を上にすることで左利きの生徒への配慮がされている表記になっている。
総括	○筆の運びを表す「とん」「すう」「ぴた」は、独自の語で強弱・スピード・朱墨と薄墨で穂先の通り道を示し、生徒にとって印象に残りわかりやすい。 ○行書の四つの動きは同じマークで記され、どの文字を書く時も意識しやすくなっている。 ○書写活用ブックは、書く活動が充実し、横断的に学べる構成になっている。

研究調査報告書

教科名（書写）

項目		現代の書写 (15・三省堂)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○学年ごとに編集されている。学年ごとの学習内容が明確で、系統的に学ぶ段階が示されている。(1年「楷書と仮名」「行書の基礎」、2年「行書と仮名」「楷書と行書」、3年「文字文化の豊かさ」)について系統立てて学べる。 ○「書いて身につけよう」の内容が充実しており、学習内容を確認し、技能を習得できる工夫がされている。
	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○学力テストで基本的な知識の習得内容を確認することができる。 ○毛筆で学んだことがそのまま硬筆に生かすことができる構成になっている。 ○行書の書き方は、ページごとにポイントを一つに絞り、目標を明確にしている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「書いて身につけよう」のページで新たな課題に取り組ませることで、学習内容が身についたか確認できる。 ○書写で身につけた力を国語の学習とつなげ、生かせる活動が設定されている。 ○学年末の「やってみよう」のページでは生徒たちが対話を通して書写で身につけた力を発揮できるような課題が設定されている。『学びを広げる』のコラム欄が充実している。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○「振り返ろう」で自分が学んだことを文章で書き残す欄を設けることで、学習した内容を自分でまとめる工夫がされている。 ○3年間のまとめとして、自分が好きな言葉を身につけた力を使ってきれいに書くという主体的に取り組ませる活動が設定されている。 ○都道府県の学習(P52,53)では、絵・地図・文字を使って特徴を捉えて示している。
	資料	○便箋や封筒、送り状の書き方など、日常で使える書式が掲載されている。 ○生徒の興味をひくJポップの歌詞が掲載されている。 ○書き初めの手本は1年生ではひらがながなく四字熟語で新鮮である。2、3年生も「ゆ」や「ち」などあまり書いたことのないひらがなであり、挑戦する意欲がわく課題である。 ○挿絵、図版を適所に配置、手書き文字、イラストやマークを多用し、学習意欲を喚起し、理解を助けている。
	表記表現	○中学生のイラストやキャラクターに吹き出しが多く、その内容が大事なポイントになっている。 ○目標に対応した振り返りができるよう、見開きの左ページに疑問形で何を確認すればよいか記されている。
総括		○別冊の資料等はないが、「書いて身につけよう」のページが充実しており、各活動も取り入れることができる構成になっている。 ○1時間1時間の振り返りが自分でできるよう、学習内容の確認と振り返りをする欄を設けるなどの工夫がされている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 書写 ）

項目	中学書写 (17・教出)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習の進め方が示され、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」という学習の流れが把握しやすく学び方が定着する工夫がされている。 ○社会で役立つ書式を掲載することで学習内容が生活のどの場面で生かせるか考えながら学ぶことができる。 ○学年ごとに編集されている。1年で「身に付ける」、2年で「使い分ける」3年で「使いこなす」と明記され、学習段階がわかりやすく示されている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○手を筆先に見立てて筆使いをわかりやすい言葉とともに説明している。(P42) ○「学習を生かして書く」のページが充実しており、何度も書くことで技能を習得することができる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○書写の学習内容と国語や理科、総合など、他教科と結び付ける課題の設定がされている。 ○国語の「書くこと」「読むこと」などの言語活動と連携した課題で、国語の学習内容の定着も図ることができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○学習の進め方を明確にすることによって学び方が定着し、主体的にまなぶことができる。 ○「学びリンク」(P4～)で解説動画やワークシートを掲載し、個別最適な学びや、主体的な学びができる工夫がされている。 ○1年生の最初の目標としてノートの書き方の確認という身近な課題を設定することによって、「書くこと」に対しての意義や価値を考えさせ、意欲を高める工夫がされている。 ○国語教材との関連を図りつつ、社会科などの他教科との横のつながりが感じられる。
	資料 ○コラムでは生徒たちが知っている偉人(P52,53)が記した言葉を掲載し、文字に対しての興味を高める工夫をしている。 ○生徒の興味をひく各都道府県にある城跡の石碑の文字を掲載している。 ○巻末の漢字一覧表には縦列に数字、横列にアルファベットが記載(P133)されており、漢字が見つけやすい工夫がされている。
	表記表現 ○目次に学習内容の詳細が記され、一目で何をするのかわかる。 ○振り返りはチェックを入れるだけで、何を振り返ればよいかすぐにわかるようになっている。 ○伝わりにくい内容はイラストや比喻で表現されている。(楷書＝立つ、行書＝歩く、草書＝走る)
総括	○136 ページあり、学習内容が豊富である。 ○学び方がわかりやすい言葉で明確に記されており、主体的に学べる工夫がされている。 ○コラム欄が左右見開き 8 編 (16 ページ) あり、豊富で生徒が興味を持つ内容が多い。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（書写）

項目		中学書写 (38・光村)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○1年から3年までの学習内容が段階的に1冊にまとめられ、段階的に配列されている。 ○「①考えよう」「②確かめよう」「③生かそう」で目標に対しての学びの段階を示している。 ○「学びのカギ」を示し、文字を書くときの意識すべきポイントをわかりやすくすることで基礎基本の定着を図れる工夫がされている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> (例) ○筆圧と線の太さを筆のイラストの大きさを示されている。 ○毛筆では、筆使いを朱墨と薄墨で表し、点画の変化や省略などの手本は、文字と部分とに分けている。 ○「トン」「スー」「トン」などの語で筆運びのリズムを伝える工夫がある。 ○行書の特徴を四つのスイッチで示し、書くときのポイントが一目でわかる工夫がされている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> (例) ○基本点画の説明の前に「漢字の分解」を取り上げるなど、導入における工夫がある。 ○行事などのクラス掲示など、身近なところでの生かし方が示されている。 ○書写で身につけた力を国語や他教科で生かせる課題が示されている。 ○SDGs (P33～) などの今話題になっている言葉と書写をつなげて、書写を学びながら他教科や総合と関連させる工夫がされている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> (例) ○「考えよう」では手書きのよさを考える漫画が掲載されており、身近な例から考えられるようになっている。また、書写を学ぶ意義も考えられ、主体的に学ぶ工夫がされている。 ○コラムでは身近な生活の中に書写の学習内容があることを知り、すぐに生かそうとする意欲を出させる工夫がある。 ○詩・短歌・俳句・季語・古文・壁新聞・手紙の書き方など国語科教材との関連を図っている。
	資料	○「書写ブック」全28ページは、取り外しが可能で、書き込みながら学習できる欄もある。内容が充実しており、書くことだけに集中して学習することができる。 ○巻末の「書き初めマスターブック」では書き初めに特化した内容が掲載されており、書き初めの由来や文化を学ぶことで、書き初めが主体的な活動になるよう工夫されている。 ○別冊で「書写ブック」として、硬筆練習帳があり、確かな学力の定着となっている。
	表記表現	○漫画やキャラクター、イラストなどが充実しており、文字だけよりも見やすく、学習意欲を高めている。 ○漢字に読み仮名が記されており、1年生でもスムーズに読み、理解できる表記になっている。 ○半紙サイズの手本に朱墨・薄墨の書き順が表記され、筆の流れがわかるように工夫されている。
総括		○1年から3年までの学習内容の段階的な配列が整理されていて、内容も充実している。 ○行書を書くときの四つのスイッチが押さえるべきポイントを明確にし、どの文字を書くときも意識しやすい。 ○「書写ブック」の内容が充実していて書く力を身につけることができる。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 地理 ）

項目		新しい社会 地理 （2・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○単元全体を貫く問い「探究課題」を設定し、1時間ごとの「学習課題」と単元を振り返る「探求のステップ」を設け、段階を踏んだ課題解決的な学習ができるようになっている。 ○巻頭に「地理を学ぶ5つのミカタ」のページを設定することで地理的な見方・考え方を育成すると共に、その見方・考え方を各ページの写真や活動場面に反映させている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「チェック」や「スキル・アップ」で知識や資料活用の技能の定着を図っている。 ○各小単元の最後に「確かめよう」、「ワードチェック」を設定し、知識の確認と定着を図っている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○毎授業、「トライ」（まとめ）を通して学んだ内容を文章で説明させることで表現力の育成を図っている。 ○各小単元の最後で、探求課題解決への視点や考え方を示すと共に、表現する活動を設定し、社会的な見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力の育成を図っている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○小単元ごとに「探究課題」を、授業1時間ごとに「学習課題」を設定することで、生徒が主体的に学習を進められるようになっている。 ○地球的課題の解決策を考えたり、日本の各地方の特色を伝えたりする活動を通して、よりよい社会の実現を追求する態度の育成を図っている。
	資料	○「スキルアップ」、「資料から発見!」を設定し、資料を活用する技能や読み解く力の向上を図っている。 ○単元の導入・展開・まとめなど、学習シーンに合わせたデジタルコンテンツが活用できるよう、各ページに二次元コードが掲載されている。
	表記表現	○「分野関連マーク」で他分野・他教科とのつながりを表し、内容の深化を図っている。また、資料や本文中に番号やページを載せ、掲載資料と本文でのつながりや関連ページとのつながりを示している。 ○ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）や色覚特性に配慮し、すべての生徒が見やすいようにしている。
総括		単元を貫く課題として探究課題を設定することで、生徒が主体的に学習を進められるようになっている。また、各単元のまとめのページでは、知識・技能の定着、社会的な思考力・判断力・表現力の育成、主体的に取り組む態度の育成と、3つの観点に関連付けた学習が設定されている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 地理 ）

項目		中学社会 地理 地域にまなぶ （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「LOOK!」「確認／表現」、「THINK!」、「TRY!」のコーナーやコラム、「学習のまとめと表現」では、段階的な学習を進めることで学力の向上を図っている。 ○社会的課題や今日的課題が反映された事象を扱うことで、公民的資質の育成を図っている。
	特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「地理の技」では、地図やグラフの扱い方を学習し、地理的技能の習得を図っている。 ○毎授業の「確認」、単元のまとめの地図や「ワードチェック」を用いて、知識の定着を図っている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○毎授業の「表現」で学習したことを活用し、説明することで表現力の育成を図っている。 ○「特設ページ・クロスロード」では、さまざまな視点から地域を捉え、協働して学習を進めることで思考力・判断力・表現力の育成を図っている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○「地域のあり方」では、社会参画の意識をもって地域の課題解決に向けて考える学習を取り入れている。 ○単元のまとめで学習した内容を活用することで、学びに向かう力の育成を図っている。
	資料	○導入ページにその地域の特色を表す写真や、その後の章や節の学習に関わる地理的な「見方・考え方」が掲載されている。 ○二次元コードから動画、クイズ教材、安全で公正な外部リンクなど多様なデジタルコンテンツを活用することができるようになっている。
	表記表現	○本文中に資料との関連を示す番号や注釈、参照ページ、さらに他分野との関連も示している。 ○紙面は、カラーユニバーサルデザイン、文字は、ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を取り入れている。
総括		「確認」や「地理の技」で基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている。「特設ページ・クロスロード」で様々な視点から地域を捉え、協働して学習を進めることで思考力・判断力・表現力の育成を図っている。また、地域の課題やSDGsなど社会参画の意識を持って学習に取り組める工夫がみられる。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 地理 ）

項目	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土 （４６・帝国）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各章や節の冒頭に単元を貫く問いを設定し、学習内容の見通しを持てるようにしている。また、各章の終わりは、単元の振り返りができる段階を設定し、学習内容の定着を図っている。 ○「特設ページ」や「コラム」には、地理的な見方・考え方を確認すると共に学びを深めるヒントが示されている。	
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○各単元の終末に「学習内容の振り返り」のページを設定し、知識の定着を図っている。 ○「技能をみがく」（２１テーマ）を設け、地図や統計の読み取り方などについて、基礎的な技能が学べるようになっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○各単元の終末に学習内容を自分の言葉でまとめる活動を設定し、言語活動を通して振り返りができるようになっている。 ○「アクティブ地理」（４テーマ）を設け、地理的な見方・考え方を働かせながら自分の意見をまとめたり意見を交流しながら学びを深める場面が設定されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養や主体的に課題を解決しようとする態度を育成するために、世界や日本の諸地域に関する学習の冒頭では、「地球的課題」や「諸地域の課題」について問題提起をしている。 ○特設ページやコラム「未来に向けて」を設定し、持続可能な社会をつくるための取組を持続可能な開発目標（SDGs）に関連させながら紹介している。
	資料	○世界や日本の諸地域学習の冒頭では、見開きで「写真で眺める〇〇」のページを設定し、学習の見通しを持たせる工夫をしている。 ○二次元コードを利用し、資料をアニメーションで解説したり、ワークシートを所得できるようになっている。
	表記表現	○特別支援教育やユニバーサルデザインの観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなっている。 ○文字は、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用している。
総括	各章、節、一時間ごとの冒頭に単元を貫く問いを設け、終末では それらの問いに対して生徒自身が学習の振り返りができるようになっている。また、一時間ごとに、地図帳と関連づけながら基礎的・基本的な知識の確認と、地理的な見方・考え方で説明しながら学習を振り返ることができるような場面が設定されている。	

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（社会科 地理）

項目		中学社会 地理的分野 （116・日文）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○世界の各州、日本の各地方の地域的特色を視覚的にとらえられるよう導入が工夫され、そこから単元を貫くテーマを導くことで、主体的・対話的で深い学びができるよう構成されている。 ○特設ページを設け、地理的な見方・考え方についてどんな視点があるかについて解説している。また、毎時間、「見方・考え方」のコーナーが設けられ、どの視点で学習を進めていけばよいのか具体的に示している。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○本文中に「スキルUP」のコーナーを設け、写真の見方や地図の活用の仕方など地理的技能を系統立てて習得できるよう解説している。 ○単元のまとめでは、地図を使って地名や地形について整理したり、テーマについて重要語句でまとめたりして知識の定着を図っている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○ページ毎に「見方・考え方」のコーナーを設け、学習課題の理解を深めるための見方・考え方を働かせる問いを示している。また、「地理+α」というコラム欄を設け、学習内容の理解を深められるようにしている。 ○複数の資料を重ね合わせることで多角的に捉えられるようになっており、それを深い学びに繋げている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○日本の諸地域のまとめで「持続可能な開発目標」を取り上げ、これまでの学習をその視点で振り返ることができるようにしている。 ○地域の課題として「自然と防災」、「交通と観光」をテーマに調査し、まちづくり会議を開く例を紹介することで、社会参画への意欲を喚起している。
	資料	○世界と日本の諸地域の学習では、単元の導入において豊富な写真や資料を掲載し視覚的に地域の概要をつかめるようになっている。 ○巻末資料には、世界と日本の統計資料や用語解説が掲載され、「デジタルマーク」や二次元コードがついた教材は、ウェブにある資料を活用できるようにしている。
	表記表現	○各ページ毎に学習課題とそれに対応した「表現」と「確認」のコーナーがあり、1時間の振り返りができるようになっている。 ○本文中に資料との関連を示す番号がつけられている。また、インデックスをつけ学習内容を全体の中に位置づけて学習を進められるようにしている。
総括		各章の導入では、写真や地図等でその章の主題を焦点化し、各州・各地方の地理的環境を概観した上で主題を設定している。また、主題に沿った学習課題とそれに伴う地理的な「見方・考え方」を提示することで、探究型の学習ができるようになっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 地図 ）

項目		新編 新しい社会 地図 （２・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○地域ごとの学習に合わせた資料（主題図やグラフ、年代別の地図など）を充実させ、社会的な見方・考え方が身につくようにしている。 ○巻末では、領土をめぐる問題を抱えている島々の写真と説明文を掲載し、日本の領域について理解を深められるようにしている。 ○日本の郷土料理や伝統的工芸品、世界遺産を取り上げた地図や写真を掲載し、日本の伝統文化に触れられるようにしている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「○○州(地方)の基本資料」として、その地域の特色を読み取れる主題図を掲載することで、基礎的・基本的な知識を習得できるようにしている。 ○「地形図の読み取り」に関するページでは、タブレット等を用いて Google マップやデジタル地図を活用する方法を身につけることができるようにしている。 ○巻頭で地図記号や一般図・主題図の見方について説明している。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○地図を深く読み取るための問い（Bee's eye）を見開きごとに設定している。 ○州（地方）ごとに主題図やグラフを掲載し、それぞれの特色について多面的な思考ができるようにしている。 ○自然環境（災害）、文化、人口、農林水産業など、テーマごとに日本や世界の各地域の資料がまとめられており、比較しやすくなっている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○巻頭に SDGs 特集を設け、各ページの関連の深い主題図などに SDGs マークを掲載し、主体的に地球的課題の解決に向き合えるようにしている。 ○地図以外にも写真やイラストを掲載したりすることで、学びに向かう力を高めようとしている。
	資料	○統計資料では、地方ごとに色分けをしたり、日本の統計では、各項目の１位の数値を赤字で示したりして、資料が読み取りやすくなっている。 ○デジタル地球儀や解説動画など、二次元コードを読み取ることで学習シーンに合わせたデジタルコンテンツを活用することができる。
	表記表現	○ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）の使用や色覚の特性に配慮し、見やすさの向上を図っている。 ○歴史・公民とのつながりや別ページの関連資料をマークで表記している。 ○インデックスの色分けやページ番号の場所の固定など確認しやすくしている。
総括		一般図に加えて、主題図やグラフ等、資料が充実しており、多面的に考察することができる。歴史や公民分野とのつながりを示し、地理の授業以外にも多く活用することができるようになっている。また、様々なデジタルコンテンツが設定されており、学習の内容に合わせ ICT を活用した学習を手軽に行うことができるようになっている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 地図 ）

項目		中学校社会科地図 （４６・帝国）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○自然や人口分布、産業に関する資料の比較を通して地理的な見方・考え方が身につくようになっている。 ○巻末の資料で我が国固有の領土とまわりの国々について正しく理解することができるようになっている。 ○各地に根付いた伝統的工芸品や地場産業の絵記号、日本国内の世界文化遺産を掲載し、日本の伝統と文化への関心が持てるようになっている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○地図帳の凡例、使い方がわかりやすく説明されている。 ○問いコーナー「地図で発見！」（１０３か所）で地図をもとに確認したり、深めたりすることで知識の習得・定着を図っている。 ○地域の産業や特産物、史跡や交通機関などがイラストでわかりやすく確認できるようにしている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○問いコーナー「地図で発見！」（１０３か所）で地図をもとに社会的な見方、考え方を働かせることで思考力・判断力・表現力の育成を図っている。 ○「日本の自然災害・防災」のページが設けられ、ハザードマップと地形図の比較から、防災における判断力の育成を図っている。 ○環境問題や持続可能な開発目標に関する資料（４８か所）が豊富に掲載されており、考察しやすくなるよう工夫されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○世界の各州には、自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図（６か所）あり、興味・関心を高めようとしている。 ○世界や日本の主題図では、同縮尺で主体的に比較・関連・考察しやすくなるよう工夫されている。
	資料	○通常の４色印刷に黄緑色（クサ色）のインキを加えた５色刷りで見やすく印刷されている。 ○地図帳を主体的に活用できるよう二次元コード（５６か所、９７１コンテンツ）が設置されている。
	表記表現	○可読性の高いUDフォントを使用しており、見やすい表記となっている。 ○地図やグラフにカラーユニバーサルデザインに対応した色彩表現を使用しており、見やすい表現となっている。 ○タイトルやページ番号、インデックスの位置が統一されている。
総括		A4版の紙面やイラストを配した鳥瞰図など、見やすい工夫がある。また、問いコーナー「地図で発見！」（１０３か所）で基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力の育成を図っている。持続可能な開発目標に関わる資料（４８か所）があり、地球的課題について考察できるようになっている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目		新編 新しい社会 歴史 （2・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○単元を貫く探究課題が設定されていて、その章と関連する時代やイラストが用いられており、各時代の特色をふまえて理解できる構成になっている。 ○社会科3分野共通の5つのテーマについての題材を巻頭と各単元にマークを付けている。それによって他分野との関連が図られ、多面的多角的に考察できるようになっている。 ○「もっと知りたい」というコラムが設けられ、神話や多文化諸外国とのかかわり及び国際協調の精神と態度を身に付けられるような内容構成になっている。
	特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○1単元時間で学習する内容が見開き1ページにまとまっており、そこに豊富な資料が掲載されている。また、巻頭や巻末にも資料があり語句に関連するページが明記されている。 ○学習するうえでつまずきそうな語句については注釈を利用することで知識をさらに深め定着できる内容構成になっている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○各章の学習において、章全体を貫く「探究課題」、各節ごとの課題である「探究求ステップ」、1単元時間の「学習課題」が設定され、思考力・判断力・表現力を身に付けられる内容構成になっている。 ○「みんなでチャレンジ」が設けられていることから他者の意見を取り入れ自らの思考を深められるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○各節ごとの課題を解決するために「ステップチャート」「クラゲチャート」「Yチャート」を用いて自分の考えを整理することができるようになっている。 ○「資料から発見」「もっと知りたい」「地域の歴史を調べよう」などの特設ページを設け、現在とのつながりを考えることができるような構成となっている。
	資料	○全単元にてQRコードが示されていて、関連する動画や資料、地図がまとめられていて知識や自分の考えを深められるようになっている。 ○見開きの上部に、導入資料とその資料に関する問いが設けられていたり、資料を基にして問いかけが設定されたりしている。
	表記表現	○各章の導入部分に「小学校で習ったことば」がまとめられている。小学校での内容や「スキルアップ」などで身に付けた技能を活用するコーナーが設けられている。 ○領土に関しては5章3節中に「領土をめぐる問題の背景」として1単元時間が設けられ、近隣諸国との関係について歴史的経緯と日本の取り組みについてまとめられている。
	総括	各章の導入部分にてその章で学習する出来事の写真等を提示し、それを基に「みんなでチャレンジ」にて他者と交流をはかり、章の学習が深まるような内容構成になっている。各章の「まとめの活動」では節ごとの「探究ステップ」を解決できるよう3つ程度の問いで節ごとの復習をすることができる内容構成になっている。社会科の他分野との関連がわかりやすいようにマークが使用されている。「もっと知りたい」や「未来にアクセス」などのコラムから歴史に興味をもって学習できるような構成となっている。

第25採択地区教科書用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目		中学社会 歴史 未来をひらく （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○歴史の大まかな流れや各時代の特色を理解するために、各時代の「学習のまとめと表現」に日本と世界の動きを大観する構造図が掲載され、文化や政治について考察・表現する活動を設けている。 ○「歴史的な見方・考え方」を単元のまとめに設け、各時代の特色や時代の比較ができるような内容構成になっている。 ○「歴史を探ろう」をもとに、多文化や諸外国とのかかわり及び国際協調の精神と態度を身に付けられるような内容構成になっている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○見開きが1単元時間で、導入資料などの豊富な資料で知識が定着できる構成となっている。 ○各単元に「THINK!」を設けることで、単元中にある資料を読み取り、考えを深める力を習得できるようになっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○各単元に学習課題が表記されていて、「確認」と「表現」から学習内容を確認め自分の考えを深め、広げられるようになっている。 ○章のまとめでは、表を利用してまとめたり資料を読み取って振り返ったり、前の時代から変化したところに着目したりするページが設けられている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○章の導入として、その時代の人々の暮らしを、資料をもとに考えることで、現在とのつながりを考えることができるような構成となっている。 ○章のはじめに「時代に注目!」というコーナーを作ったり、「歴史を探ろう」では当時の様子や資料が多く使用されていたりして、より深く歴史を考えられるよう設定されたりしている。
	資料	○単元において「歴史の技」という項目が設けられ、QRコードが示されており、関連する項目が動画にてまとめられていて知識を深められるようになっている。 ○見開きの上部に、導入資料・中心資料が写真等で大きく掲載され、さらに学習コラムなどに資料の説明や問いかけが設けられている。
	表記表現	○小学校で学習した人物には「小学校」のマークがあり、国宝と世界遺産の資料にもマークが付けられている。さらに、「歴史を探ろう」のページにはSDGsの項目や地理・公民と関連する項目が下部に表記されている。 ○領土に関しては「歴史を探ろう」という項目を戦後の国際関係の変化の後に設け、近隣諸国との関係について歴史的経緯と日本の取り組みについてまとめられている。
総括		各章の導入部分で人々の暮らしをとらえ、それに基づく学習課題の設定がなされている。また、その学習課題を追及するために節の課題が設定されている。導入部分にて学習の見通しを立てるとともに重要語句を理解してうえで学習に取り組めるようになっている。さらに、章のまとめにて年表を利用して知識を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成する問いが設けられている。「歴史の窓」や「歴史を探ろう」の項目で歴史の学習に興味を持ち、深く学べる構成となっている。

第25採択地区教科書用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き （46・帝国）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○我が国の歴史の大きな流れや、各時代の特色を理解するために、各時代のはじめには当時の様子を表した資料があり、内容項目においても、多様な資料が活用されている。 ○歴史的な見方・考え方、時代・推移・相互の関連を多面的・多角的に考察するために、単元のまとめにおいて年表の活用や時代の比較ができるような内容構成となっている。 ○技能をみがく取り組みや、思考を整理する手法を取り入れることで、社会を形成する公民としての資質を育成するとともに、コラムを活用してより良い社会の実現に向けて追求できるようになっている。
特色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得〉 ○適切な文章とともに、豊富な資料で知識が定着できるような作りとなっている。 ○技能を磨くコーナーを設けることで、歴史的な見方・考え方を働かせるうえで必要な技能の習得ができるようになっている。 〈思考力・判断力・表現力等の育成〉 ○説の問いが各項目に書いてあり、それに基づいた学習課題の設定と確認しようの項目で、段階的に思考力・表現力を育成できるようになっている。 ○学習を振り返ろうでは説の問をまとめる項目や、タイムトラベルの比較で、歴史的な見方や考え方を育成できるようになっている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫〉 ○学習の振り返りにおいて、歴史のまとめの学習につながるよう、現在とのつながりや、SDG s とのつながりを考えることができるようになっている。 ○章のはじめと終わりには、立てた予想から学んだ時代に関する考えを深めるような、自ら主体的に学べる形になっている
	資料 ○章や節のはじめ、『アクティブ歴史』、『世界とのつながりを考えよう』の項目では QR コードが示されており、関連する項目が ICT を活用して理解を深められるようになっている。 ○『未来にむけて』では道徳的項目や、現代社会の課題との関連を考えた解説などがなされている。（全 63 テーマ）
	表記表現 ○小学校・地理・公民・他教科との連携がページ下部に示されるとともに、学んでいる時代がわかりやすいようにページ右に年表の表記と色付けがなされている。 ○領土に関しては『歴史をさぐる』という項目を設け、領土の確定を近隣諸国について歴史的経緯がわかるようにまとめられている。
総括	各章の課題設定と追求するための節の課題が設定されている。毎時の授業では、導入資料→課題の設定→本文資料→末尾の確認しよう・説明しよう知識の定着と思考力・判断力・表現力の育成ができるようになっている。『アクティブ歴史』や『タイムトラベル』、『歴史を探ろう』、『未来に向けて』の項目で興味を持って学習できるような構成になっている。

第 2 5 採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目		中学歴史 日本と世界 改訂版 （ 8 1 ・ 山川 ）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○社会的事象の歴史的な見方・考え方として、歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて、考察や理解を促している。 ○「歴史へのアプローチ」「地域からのアプローチ」「歴史を考えよう」のページがあり、歴史関する様々な情報を多角的・多面的に知る工夫がある。 ○各章の最後に、「まとめ」のページがあり、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、自分の言葉でまとめていくような工夫がある。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○日本の歴史の流れを、世界の背景を踏まえた構成になっている。各ページでは、テーマの下に課題が示されており、本文を読む視点が明確である。 ○課題に対して理解を深めるために「ステップアップ」が設けられ、基礎的・基本的な知識の定着を図る工夫が見られる。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○各章に「歴史へのアプローチ」「歴史を考える」のページがあり、課題について、資料を基に多面的・多角的に情報を収集し、歴史について面白く学ぶ工夫が図られている。 ○各章の最後に、「まとめ」のページがあり、これまでの既習事項や知識を踏まえながら、特色や課題に対するまとめができるように工夫がある。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○「身近な地域を調べよう」では、身近な地域を通して、歴史と対話するための具体的な調査方法やレポートの書き方が紹介している。 ○学習の最後に、これまでの歴史の課題を踏まえながら、より良い未来を考え、現代社会がこれからどこへ向かうかを考察させる学習課題が設定されている。
	資料	○資料が豊富であり、資料から学習のポイントが分かりやすく解説されている。また、詳しく知りたい資料について QP コードが示されており、より詳細を知ることができる。 ○意味が難しい用語には「用語解説」が記載されており、分かりやすい。
	表記表現	○資料の説明が丁寧であり、本文の番号が資料や用語解説の番号と連携している。考えを深めやすくする工夫がなされている。 ○領土に関しては「歴史へのアプローチ」にて、近隣諸国との関係や歴史的経緯が分かるように資料とともに紹介されている。
総括		はじめに「歴史との対話」「身近な歴史を調べよう」で歴史的な見方・考方を学びやすくするために、調べ方等について細かく紹介されている。また、「歴史へのアプローチ」などの特設ページを設けることにより、多角的・多面的に考察できる流れになっており、毎時の授業では、課題設定が明確で、豊富な資料、用語解説で、歴史の学習への興味を深める内容となっている。

第 2 5 採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目	中学社会 歴史的分野 （116・日文）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各章の「学習のはじめに」に日本と世界の動きが年表にまとめられていて、年表から時代を見通したり、世界とのつながりを確認したりする見方・考え方の活動が設けられている。 ○歴史について多面的多角的に考えることができる「先人に学ぶ」や「地域に学ぶ」、「歴史＋α」、「各時代の女性」などのコラムが設けられている。 ○各章の導入部分にて「地図で見る世界の動き」のページが設けられていて、諸外国とのかかわり及び国際協調の精神と態度が身に付けられるようになっている。	
特色	内容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○見開き1ページに1単元時間となっていて、その中で豊富な資料や基本用語の説明があり、深い知識が習得できるようになっている。 ○各章のまとめとふり返りにて、いつ何があったのかを年表形式でまとめ、どこで何があったのかを地図でまとめる構成となっている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○各単元で学習課題が表記されていて、その学習課題を解決するための「見方・考え方」も表記されている。また、「確認」と「表現」から学習内容を深められるようになっている。 ○各章のまとめとふり返りにて各時代がどのような時代だったのか、「Xチャート」や「ピラミッドチャート」などでまとめたり、各時代の特色を自分の着目した視点からまとめたりするページが設けられている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○章の導入時に前の時代を比較できる資料が提示されていて、比較をしたうえでその時代に対して持っている自分のイメージを表現できる構成となっている。 ○歴史の学習の最後に「歴史との対話」という単元が設けられていて、よりよい未来を創るための課題を設定し考えを深める学習が設定されている。
		○全単元にてQRコードが示されていて、関連する項目の動画や一問一答形式の小テストを取り組めるようになっている。 ○見開きの上部に導入資料の写真等が掲載され、展開中に使用可能な資料活用への問いかけが設けられている。
		○小学校で学習した人物が出てくる単元にはページの下部に表記がされている。また、学んでいる時代のできごとや時期、場所を確認できるようにほとんどの単元に年表等が掲載されている。 ○領土に関しては「歴史を掘り下げる」という項目を冷戦終結後に設け、近隣諸国との関係について歴史的経緯と日本の取り組みについてまとめられている。
総括	各章の導入部分にて前の時代との比較ができるような資料が用いられていて、これから学習する内容のイメージをまとめることができるようになっている。1単元時間の導入から学習課題の提示、その見方・考え方の提示が行われている。見開き1ページごとに1つQRコードが示されていることで、動画や外部のリンクを見ることができ知識を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成する構成となっている。「歴史を掘り下げる」や「チャレンジ歴史」の項目で歴史に興味をもって学習できるような構成となっている。	

第25採択地区教科書用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目	新しい歴史教科書（ 225・自由社 ）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○社会的事象の歴史的な見方・考え方として、歴史の物語、史料を通じて、歴史の流れを書く時代の特色を踏まえて、考察や理解を促している。 ○「もっと知りたいコラム」や「調べ学習のページ」では、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、自分でまとめられる工夫がある。 ○我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚を育成するために、日本神話に関する項目や、人々の生活の向上に尽くした人物の項目がある。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○歴史の流れの中で重要な言葉や資料は「歴史の言葉」や詳しい解説が掲載されていて、より深く理解できるように工夫されている。 ○各章に「復習問題のページ」が設けられ、これまでの既習事項を踏まえながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る工夫が見られる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○各章に、その時代の出来事や人物について、コラムの特設ページがあり、その時代の特色について多面的・多角的に情報を収集し、歴史について面白く学ぶ工夫が図られている。 ○各章において調べ学習を通して、その時代の事象について、特徴や図にまとめていくページがあり、これまでの既習事項や知識を踏まえ、課題に対してまとめていくための工夫がある。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「歴史のとらえ方」では、歴史と物語と史料の大切さを踏まえさせ、身近な地域や重要な人物を通した歴史学習の調べ方など細かく紹介している。 ○歴史の学習について、各時代の課題や特色について様々な資料を用いて探究し、まとめていく学習機会が設けられている。
	資料 ○資料が豊富であり、資料を基にした学習のポイントが番号で連携しているなど、分かりやすく解説されている。 ○重要な文献や資料については、詳しい解説が紹介されている。
	表記表現 ○資料や文献の説明が丁寧であり、本文の番号が資料や用語解説の番号と連携していて、考えを深めやすくする工夫がなされている。 ○領土に関しては、世界から見た日本の様子や近隣諸国との関係など、歴史的経緯が分かるように資料とともに紹介されている。
総括	「歴史のとらえ方」において、歴史的な見方・考え方を養うための留意点や視点が明確に紹介されている。また、神話についても紹介するページがあり、我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚を育成する項目に力を入れている。各章のコラムや調べ学習のページなどの特設ページを設けることにより、多角的・多面的に考察できる流れになっており、毎時の授業では、資料や用語解説が豊富で、歴史の学習への興味を深める内容となっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目	新しい日本の歴史 (2 2 7 ・ 育鵬社)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○歴史の大きな流れを理解させるために、各章冒頭に各時代の歴史の大きな流れをつかむための「歴史絵巻」を設けている。 ○本文を多面的・多角的な視点から解説した「歴史ズームイン」や、身近な地域の歴史についてまとめる学習の事例を取り上げる「地域の歴史を調べてみよう」を設けている。 ○国家や社会、文化の発展や人々の生活の向上に取り組んだ歴史上の人物の活躍を取り上げた「人物クローズアップ」を設けている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○見開きが1単位時間で、学習課題が提示され、本文、資料が掲載され、最後に学習の振り返りを行う「確認」、「探究」で構成されている。 ○歴史学習のはじめに「歴史のモノサシについて」の項目を設け、西暦や世紀、様々な時代区分を説明している。また、本文の下に年表が掲載されていて、学習する時代の時代や年代を把握できる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○各章の初めに「鳥の目で見ると歴史絵巻」が設けられていて、各章で学ぶ時代の大きな流れをとらえることができる工夫がされている。 ○各章ごとに、「虫の目でみる歴史」を設けて、その時代を象徴する資料を取り上げている。前章の資料と見比べて時代の違いや特色を見つける工夫がなされている。 ○各章の終わりに「まとめ」のページを設けており、各章で学習したことを自分の言葉でまとめられるよう工夫がなされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○はじめに「歴史的な見方・考え方を働かせる」が設けられていて、資料の比較や関連、現在とのつながり等歴史を学習する上での視点を身につけられる工夫がされている。 ○歴史の学習の最後に、我が国は海外の文化を取り入れながらも、日本独自の文明を築いてきたことに触れ、その担い手としての誇りをもって歴史を学んでいく姿勢を示している。
	資料 ○資料が豊富である。 ○国宝と世界遺産の資料にはマークが付けられている。 ○文章・語句に関連する資料に番号がふられていて、わかりやすい。 ○資料の中にも着目すべき箇所には番号が降られており、学習を進めていくうえで便利である。
	表記表現 ○資料の説明が丁寧で学習を深める工夫がされている。 ○本文中の番号と資料の番号が連携しており、わかりやすい。 ○ふりがなが適度にふられている。 ○領土をめぐる問題については、1単位時間の学習が設けられている。
総括	「人物クローズアップ」や「歴史ズームイン」等の資料で、国家や社会、文化の発展や人々の生活の向上に取り組んだ歴史上の人物の活躍を豊富に取り上げており、自分たちの生き方に活かしていく態度を育められるようになっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目	ともに学ぶ人間の歴史 (229・学び舎)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○歴史の大きな流れを理解させるために、各章冒頭に北極中心の世界地図が描かれ、各時代の歴史の大きな特色をつかめる工夫がなされている。 ○特色ある図版と記述により、疑問や問いが生まれ、生徒が主体的に学習できる工夫がなされている。 ○指導的な人物だけでなく、様々な分野・階層の人々の生活や社会的な業績の記述が掲載されている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○見開きが1単位時間で、学習課題が提示され、本文と資料で構成されている。 ○歴史学習のはじめに「年代のあらわし方。時代の区切り方」の項目を設け、西暦や世紀、元号や様々な時代区分を説明している。また、各章の冒頭に、取り扱う年代が掲載されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○歴史学習のはじめに、人物や、出来事、文化について調べ学習の進め方を学ぶ課題が設定されている。 ○各部の冒頭に学習課題が提示され、生徒が疑問に思ったことを出し合いながら学習が進められる工夫がなされている。 ○各部や各章の終わりに「まとめ」のページを設けており、各部や各章で学習したことを自分の言葉でまとめられるよう工夫がなされている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○はじめの学習に沖縄戦に関する学習が設けられていて、戦争を二度と起こさないようにするために歴史を学ぶ意義を示している。 ○「歴史を体験する」が設けられていて、博物館見学、フィールドワーク、家族の歴史等の調べ学習・体験学習が掲載されている。
	資料 ○資料が豊富である。 ○教科書の終わりに日本の出来事と世界の動きがわかる詳しい年表が掲載されている。 ○学習課題に沿った特色ある資料が豊富である。 ○生徒の疑問や問いを引き出す資料が豊富である。
	表記表現 ○適度にふりがながふられている。 ○生徒の主体的な学習を促すため、太字をなくしている。 ○本文は敬体で書かれていて、わかりやすい。 ○領土をめぐる問題については、1単位時間の学習が設けられている。
総括	豊富な資料から生徒が問いや疑問を持てるように工夫がなされている。「歴史を体験する」で様々な調べ学習の方法や巻末の詳細な年表で生徒が主体的に歴史を学べるような工夫もなされている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 歴史 ）

項目		国史教科書 第7版 (236・令書)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○我が国の歴史の流れや世界的な背景をつかめるよう、章の最後には日本の政治、経済・社会・文化、世界の動きが年表形式でまとめられている。 ○歴史に関わる事象の意味や意義を学ぶうえで必要な歴史的な見方・考え方を育成するための手順が明記されている。 ○我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚を育成するための神話に関する項目が豊富に書かれている。
特色	内容	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得〉 ○時代ごとに年表が活用され、学ぶ項目の明確化と見通しをたてられるようになっており、巻末には中心人物と出来事が対照表として載っており理解が深められるようになっている。 ○歴史的な事象について詳しく表記されており、深い部分まで知識を定着できるよう工夫されている。 〈思考力・判断力・表現力等の育成〉 ○各章のまとめでは、問いに対して文章でまとめさせる形をとり、思考力・判断力・表現力が育成できるようになっている。 ○『考えよう』という形で学習内容について文章で考えさせ、難しい項目に関してはヒントを掲載することでまとめやすくさせている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫〉 ○歴史学習の幅を広げるために漫画や小説を紹介するとともに、その読み方に関しての注意点を明記し、QRコードで参考文献を表記し、主体的な学びの促進をしている。 ○歴史を学ぶにあたっての年代や時代の表し方、グループでの調べ方、歴史的な見方・考え方が順序だてて表記されている。
	資料	○フィールドワークや新聞へのまとめ方、歴史の議論の仕方、ディベートを試みようなど、多面的・多角的に歴史について考えられる資料がある。 ○巻末には詳細な地図資料や豊富な芸術資料が表示されている。QRコードによる参考文献への表記がある。
	表記表現	○教科書前半部分において神話についての項目が豊富な文章や文献資料によって表されている。 ○竹島問題や北方領土問題に関して、歴史的な経緯に触れながら、その経緯について書かれている。
総括		原始・古代・中世といった大きな捉え方から、各時代についての特徴、年表を使った把握、それぞれの授業ごとに使える課題が設定されている。古代や中世などの学習の最後にはそれぞれをまとめる項目もあり、大きく時代をとらえられるようになっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 公民 ）

項目	新編 新しい社会 公民 （2・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各章の学習を、探究課題を立てる「導入活動」、各時間の課題を解決する「問いの追究」、探究課題を解決する「まとめの活動」の形で構造化し、課題解決までをスムーズに行えるようにしている。 ○社会参画している事例を取り上げ、持続可能な社会の構想や自分ごとに捉えられる工夫をし、公共の精神に基づき、主体的に社会参画する態度を養えるようにしている。 ○内容の程度、範囲は学習指導要領に示された内容を基に構成されている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○社会科の3分野や他教科でも扱う学習内容や小学校社会科で学習した内容にマークを示し、「7年間の社会科学習」が系統的に展開されている。 ○難しい用語の解説をする「もっと解説」を配置し、単元のまとめには「ワードチェック」を設け、確実な理解を促せるようにしている。 ○公民学習の基礎的な知識・技能を系統的に習得させる「スキル・アップ」を用いて、学習に必要な技能を確実に定着できるようになっている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」コーナーを設け、対話的な活動を効果的に実践できるようにしている。 ○章の終結部では、多様なツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」が設けられ、思考の整理や学びを深められるようにしている。また、QRコンテンツでは自分で思考ツールの選択ができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「インタビューコラム」を設け、実際に社会参画している人の姿から、自らの生き方やキャリア形成について考えられるようにしている。
	資料 ○本文を補完する学習効果の高い資料を大きく掲載している。 ○資料に付した「図番号」を本文にも付している。 ○資料掲載部分に背景色を入れ、本文部分との区別を明確にしている。 ○導入、展開、まとめごとに QR コードを活用したコンテンツが用意してある。
	表記表現 ○ふりがなは教育漢字以外に、見開き2ページごとに付すことを原則に、本文や資料など、必要に応じて付している。 ○本文や資料、「チェック&トライ」、QR コードの場所など、紙面の要素を定位置に配置することで、学習に取り組みやすくしている。
総括	QR コードをふんだんに活用し、短い動画へとつなげることで生徒が学ぶための「きっかけづくり」となっている。また、毎回の単元ごとに探究課題を解決すべく、キャラクターの会話をヒントにグラフや図表を活用したまとめ学習ができるレイアウトとなっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（社会科 公民）

項目	中学社会 公民 ともに生きる（１７・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○公民的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が明確におさえられている。 ○典型的な教材への焦点化と学習内容の重点化が的確に図られ、特に、社会の変化や今日の課題が反映された事象を積極的に取り上げることで、生徒の「未来社会を切り拓くための資質・能力」を育むよう配慮されている。 ○単元構成は、学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、「章（節）」の配列により、その対応が分かりやすく組織されている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○本時ページの最後には、学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。 ○本文内に適宜設けられた「公民の技」のコーナーでは、小学校社会科の振り返りにあたる学習から中学校社会科で身に付けておくことが適切な技能の習得まで、幅広い学習内容の定着に寄与する内容となっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○本時最後のページに、「確認」したことを基に表現するコーナーとして「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。 ○学習の流れに即して、「THINK」や「Q」のコーナーが適宜設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取り考察する能力を高められるようになっている。 ○各種メディアの活用法について、情報リテラシー育成にも配慮しながら詳しい解説ページが適宜設置されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○公民的分野の最後のまとめ学習として「終章：私たちが未来の社会を気づく」が位置付けられており、持続可能性を妨げる今日的な課題とその解決について、SDGs 達成の観点や自分との関わりから提案を作成する活動を取り入れている。
	資料 ○紙面に「まなびリンク（QRコード）」が印刷されており、各種コンテンツにアクセスできる。 ○本時ページの各資料には、指示しやすいように通し番号を付けられ、本文中にも資料との関連が分かるように資料番号が挿入されている。
	表記表現 ○固有名詞や社会科特有の用語などには見開きごとにふりがなを付け、主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いている。 ○文章は平易な表記・表現を徹し、側注や巻末には「用語解説」、索引の最後には「欧州略称」のコーナーを設置するなど、読解に負担がかからないように配慮されている。
総括	全体的にページごとに資料が多く、「資料から学ぶ」「資料を活用して学ぶ」という生徒の探究活動への手助けとして有効である。また、学習の柱づくりとして活用できる「THINK」であったり、学習の導入段階としての「LOOK」であったりと生徒が主体的に学ぶためのコラム、資料、図表が充実している。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 公民 ）

項目		社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して（４６・帝国）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめられるようになっている。 ○現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断をしたことを説明したり、それらを基に議論したりする力が養われるようになっている。 ○現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養われるようになっている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○見開き１時間の紙面が、興味・関心を引く「導入」になっており、学習を見通せる「学習課題」、「本文」、学習内容をふり返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得できるようになっている。 ○「技能をみがく」コーナーが設けられ、学習する上で必要な基礎的な技能が習得できるように配慮されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○各章末には「学習を振り返ろう」が配置され、章の学習で得た知識を生かして、「社会的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○部や章の導入として、学習内容を見通すことができるイラストで構成した「学習の前に」が設けられ、興味・関心を高めてから学習に入ることができるように構成されている。 ○生徒にとって親しみのある資料などが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示し、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。
	資料	○部や章の冒頭にある「学習の前に」のイラストや資料から学習内容を見通し、「学習を振り返ろう」で学習内容を振り返る学習活動ができるようになっている。 ○現代の社会で議論されているさまざまなテーマの賛否を示す「Yes・No」のコーナーが設けられ、生徒が自分の考えを整理できるようになっている。
	表記表現	○本文の記述を補足する写真や図表などが豊富に掲載され、学習を深められるようになっている。 ○本文や図版などは、UD フォントが使用され、誤読を防ぐようになっている。
	総括	「持続可能な社会の形成に参画する主権者となり、予測困難な時代を生き抜く力を育む」ことを基本として、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現する工夫がなされ、生徒が社会への興味・関心を広げ、学習内容の理解につなげられるように構成されている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 社会科 公民 ）

項目	中学社会 公民的分野 （116・日文）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○基礎・基本的な知識及び技能の定着を図り、社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする思考力、判断力、表現力等を高めるようになっている。 ○広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する内容になっている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○本文は十分な文字量を確保し、平易な表現で、社会のしくみ、事象、考え方についての抽象的な概念や因果関係を丁寧に叙述している。 ○連携コーナーでは、地理的分野・歴史的分野の学習とのつながりを意識した問いが示され、生徒の理解を確かなものにするとともに、習得した知識を活用できるようにしている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○アクティビティ、チャレンジ公民では、習得した知識を使い、見方・考え方を働かせながら考察する問いを設けている。また、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習ができるようにしている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○各章の導入ページ「学習のはじめに」では、活動を通して単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるように工夫されている。また、何を学ぶかをとらえるための教材として、学習内容と生徒の身近な生活を結び付けた漫画を採用しており、生徒が章の学習に取り組みやすい内容になっている。
	資料 ○資料を用いた活動を示す資料活用コーナーを設けており、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができる。 ○教科書掲載図版に関連した QR コードからの動画が設けられている。とりわけ海外での出来事については臨場感が伝わる動画教材を設けており、生徒が現代社会の出来事としての実感を得られるように工夫している。
	表記表現 ○「見方・考え方コーナー」「確認コーナー」「アクティビティ」など示すことで、学習課題解決の手がかりとなり、学習の振り返りもできるようになっている。 ○文字は、視認性の高さで実績のある UD フォントを使用している。
総括	指導と評価の計画に基づき、QR コードを用いたコンテンツ等が豊富で幅広い資料が充実した内容になっており、新しい時代を担う主権者を育成し、教師・生徒が共に主体的になって取り組める構成になっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（社会科 公民）

項目		新しい公民教科書 （２２５・自由社）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○社会的な見方・考え方を働かせるために、豊富な資料や図版を掲載し、多面的多角的かつ主体的に学習を進められるよう工夫されている。 ○「もっと知りたい」は、主権者として生徒自らが現代社会に見られる様々な課題解決に向けて主体的に取り組むために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けられるよう構成されている。 ○持続可能な社会の実現を目指してという最終章に向けて地理分野、歴史分野、他教科との関りを意識しながら学習を進め、公民としての資質・能力の基礎を育成できるように工夫されている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○学習を進める上で重要な語句は、「ミニ知識」のコラムで詳しい解説があり理解を深められるよう工夫されている。 ○「ここがポイント」では単元の課題に対する答えが確認でき、授業での使用に加え、復習でも効果的に使用できるように見やすく配置されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「もっと知りたい」では、興味関心を高める課題設定であるとともに課題の探究に必要なとなる詳細な情報、豊富な資料を掲載している。 ○「学習のまとめと発展」では生徒が選択したテーマについて約４００字でまとめるといった課題を通して十分な表現力を育成できることが期待できる。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○各章の「学習のまとめと発展」では学習を発展させるために５つのテーマから生徒自らがテーマを選択し、調べ考えを深められるよう工夫されている。 ○「アクティブに深めよう」では各章で学んだ知識技能を基にして社会の様々な課題について探究することで自分事として捉える時間を確保している。
	資料	○「ミニ知識」「もっと知りたい」では詳細な情報に加え、生徒が興味関心を高め、そこから学びを広げ深められるよう工夫されている。 ○図版や写真は最新の内容や国内外の地域の特性、現代社会の課題を示すものを豊富に掲載することで興味関心を促し、学習内容を生徒自らの生活や社会とのつながりを感じられる工夫がなされている。
	表記表現	○全体の構成を７２単元にして通し番号で表記することで学習の見通しをもたせ、また、現在地を把握しやすくしている。 ○ゴシック（太字）の重要語句は関連する単元でも複数回取り上げて重要なことながらを構造的に理解できるよう工夫されている。
総括		「学習のまとめ」や「ここがポイント」で基礎的基本的な知識・技能の定着を図ることが期待できる。また、最終章では３年間の社会科の学習のまとめとして卒業論文やディベートなどを通して現代社会の様々な課題に主体的に関わろうとする態度を養うことができる。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（社会科 公民）

項目	新しいみんなの公民（２２７・育鵬社）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○公民としての基礎的教養を培うために厳選された資料を用いて世の中の変化や現代の課題を多面的多角的に考察できるよう構成されている。 ○図表、写真には理解を深めるための解説を示す等、有効な資料活用を促す工夫がされている。 ○現代社会の課題に対して生徒自らが主体的に取り組む能力、態度を養うための学習方法、調査方法、問題解決の手がかりを示している。	
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○各章の導入と終末にその章で学ぶことを自分事として考えるための「学習の入り口・これから」を設け、意欲的に取り組めるよう工夫されている。 ○各章の章末に「学習のまとめ」を設けて重要語句の確認ができるとともに巻末には用語解説が掲載されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「見方考え方」では公民としての見方・考え方を働かせ、高等学校「公共」にも必要な力を身につけられるように工夫されている。 ○「資料活用」では資料活用能力を育成し、定着できるよう工夫されている。 ○「TRY!」は調べる学習、話し合い、発表など主体的・対話的で深い学びの実現に向けた活動を促す工夫がされている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○学びのテーマ、学びの方法、手段、まとめ方などを示すことで生徒の主体的対話的で深い学びを促す構成である。 ○「なぜ公民を学ぶのか」は歴史を時間的なつながり、地理を空間的なひろがり概念図を掲載して公民学習の見通しを持たせている。
	資料	○生徒が多面的多角的な視点で考えられるよう様々な課題や問題の両論併記を充実させたコラムを多数掲載している。 ○図版や写真は最新の内容や地域の特性、現代社会の課題を示すものを豊富に掲載することで興味関心を促し、学習内容を生徒自らの生活や社会とのつながりを感じられる工夫がなされている。
	表記表現	○ICTを活用した学習を促すQRコードを掲載し、生徒が自らタブレット端末等を使って学習内容に関する動画、画像を閲覧し、情報収集できる。 ○UDフォント、色覚特性に配慮したカラーユニバーサルデザインを採用してあらゆる生徒にとって読みやすいよう工夫されている。
総括	地理、歴史の既習事項や法に関する情報がマークで示されており、公民分野との関連性がつかみやすい。また、自分の生活経験と結びつきの強い身近な事例を通して興味関心が高まるよう工夫されている。また、生徒が自分の将来設計との関わりの中で学習を深められるよう構成されている。	

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（数学）

項目	新編 新しい数学（２・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○「例」「問」の構成で、学習内容を確実に身に付けることができるよう節末に「基本の問題」、巻末に「補充の問題」が設けられている。 ○導入問題では、日常生活と結びついた題材を扱って学習への意欲を高め、また、深い学びができるように巻末に「数学の自由研究」が設けられている。 ○各節に設けられた「学びをふり返ろう」で問題解決の過程を振り返り、「数学のまど」や「MATH CONNECT」で数学を活用する楽しさが実感できる工夫がある。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「例」の類題には♡マークが設けられており、巻末の「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるようになっている。 ○「クイックチェック」やDマークコンテンツの「フラッシュカード」で、繰り返し問題演習に取り組み、内容の定着を図ることができる構成になっている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○「数学の目でふり返ろう」のページで数学の様々な分野における3年間の学びのつながりを確認できるようになっている。 ○巻頭に「MATH CONNECT」のページが設けられ、数学と様々な事象とのつながりを意識させるような内容となっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「学びをひろげよう」のページで、社会で数学を活用している場面が紹介され、数学の有用性や社会とのつながりを学ぶことができる構成になっている。 ○各節の「学びをふり返ろう」では、友達と話し合ったり、自分の言葉でまとめたりして、評価・改善しようとする態度を養う構成になっている。
	資料 ○切り取って使える学習グッズが付録としてついている。また、「D マーク」があるページでは、動画やワークシート等のデジタルコンテンツを使った学習ができる。 ○キャラクターの吹き出しが、アドバイスだけでなく、考えるきっかけや気づきを与えるような工夫がされている。
	表記表現 ○見通しをもって学習を進めるために、「学習課題」は黄色の枠で囲まれ、ゴシック体で強調されている。 ○新しい用語、記号はゴシック体の太字で示され、重要事項はリングノートのようなデザインの中にまとめられている。
総括	章の導入では、主体的な学びのために「学習課題」「Q（考えてみよう・説明してみよう、調べてみよう）」が設けられている。章の終盤の「学びをふり返ろう」では、友達と話し合ったり、自分の言葉でまとめたりする機会を設けている。巻末には、深い学びを振り返ることができるように、「数学の目でふり返ろう」が設けられている。デジタルコンテンツも充実している。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（数学）

項目	数学の世界（４・大日本）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○「活動」「例題」「Ｑ」で構成されている。課題ごとに学習の「めあて」が示されており、見いだした問題の解決の見通しがもちやすいように工夫されている。 ○「活動」「例題」のあとに「たしかめ」が設けられ、「たしかめよう」「章をふり返ろう」「力をのばそう」で、学習内容の定着を図ることができる構成になっている。 ○「MATHFUL」「活用・探究」「学びにプラス」では、数学の世界をさらに広げる話題を取り上げ、数学を活用する楽しさが実感できるようになっている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○章の学習内容を「活動」「例題」「Ｑ」で身につけ、「プラスワン」や巻末の「補充問題」で学習内容の定着を図ることができる構成になっている。 ○章末にある「ふり返ろう」「力をのばそう」では、「例」の類題から発展的な問題まで多くの設問があり、繰り返し問題演習ができるようになっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○考え方が妥当かを判断する問題「判断しよう」や、考え方の内容を説明する問題「伝えよう」等を設けて、思考力・判断力・表現力を高める工夫がある。 ○巻頭の「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れが示され、見いだした問題の解決の仕方が身につくように工夫されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すよう身近な問題が扱われており、興味・関心を高めるような工夫がある。 ○「社会にリンク」のページで、社会で数学が活用されている場面が紹介され、数学の有用性や数学と社会のつながりを学ぶことができる構成になっている。
	○複数のキャラクターによる吹き出しが、考えるきっかけを与えるだけでなく、誤答を示すことによって気づきを与えるような工夫がされている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークがつけられており、実際に操作して学習できるコンテンツや資料を参照することができる。
	○学習を始める手がかりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。 ○キャラクターの吹き出しが、アドバイスだけでなく、考えるきっかけや気づきを与えるような工夫がある。
総括	各章に１箇所ずつ、日常生活や他教科とのつながりを考えられる問題が設けられ、問題発見・問題解決の流れとともに示すことで学習内容を活用し深められるような工夫がある。章末や巻末には、「力をのばそう」「MATHFUL」「活用・探究」「社会にリンク」「課題学習」などが設けられ、各章の学習を総合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題を扱っている。

研究調査報告書

教科名（数学）

項目	中学校 数学 (11・学図)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○巻頭「この教科書を使った数学の学び方」で数学をどのように学ぶべきかを順序立てて示されている。 ○本文の展開は、解決したい問題を発見し、問題の解決方法を探し、解決した問題からわかったことをまとめ、新たな問題を見つける構成になっている。 ○操作活動を取り入れ、楽しみながら思考するよう構成され、章末巻末の問題は学習内容を SDGs に関連させて新たな場面に生かすことができる構成になっている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「例」では、ノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方とノートを書く際の留意点が丁寧に記載されている。 ○「計算力を高めよう」では、基礎的・基本的な知識・技能を習得できる問題が設けられ、「まとめの問題」では、基礎と応用に別れ、習熟度に応じて取り組むことができる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○論理的に思考したり、問題文から必要な情報を取捨選択したり、それを説明したりするといった課題を取り上げている。 ○巻末の「見方・考え方をまとめよう」では、どんな見方・考え方をしてきたかを明確にし、より深い理解につなげられるような工夫がある。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○本文中の「おしえて！」では、学習の中で子供が自然に感じるような疑問を取り上げ、その答えの一つとして「Tea Break」でコラムを掲載している。 ○章末の活用問題や「深めよう！」等では、生活体験に基づく身近な場面を取り上げ、数学をさらに深めて学ぶ態度を養う工夫がある。
	資料 ○「プログラミングを体験してみよう」でスクラッチを通してプログラミング体験学習をすることができるようになっている。 ○巻末資料に、正多面体の模型や正負の数での学習で活用するカードゲーム、確率の学習で活用するサイコロなどの教材が付いている。
	表記表現 ○新しい用語、記号はゴシック太字で示され、必要に応じて振り仮名が振られている。また、重要事項は電球マークと枠線で囲われている。 ○単元の始めに導入課題としての「Q」がゴシック太字で、「目標」がステップマークと枠囲みで示されている。
総括	巻頭で「この教科書を使った数学の学び方」「ノートの使い方」「単位の書き方」「QR コードの使い方」が掲載されている。章の学習の中に「数学的活動のページ」が適宜設けられ、一つの課題に対する問題発見から解決までの過程が示されている。各領域の「ふりかえり」で学習内容のつながりを意識することができ、また、高校への架け橋や日常生活を関連付けるページも扱っている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 数学 ）

項目		中学数学 （１７・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「例」「たしかめ」「問」、繰り返し学習のための「補充の問題」、すべての章の問題を活用して解く「総合問題」へステップアップしていく構成になっている。 ○身のまわりの場面を取り上げた問題が多くあり、章末の「学んだことを活用しよう」では、学習を深めたり広めたりすることができる構成になっている。 ○「数学の広場」で、数学と現実社会や、数学にまつまる知識との結びつきを学び、問題を通して数学的活動の楽しさを実感できるように工夫されている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○どの章の前にも「学習する前に」のページがあり、既習事項の内容でその章に関わることを振り返ることで、次の章につなげやすくしている。 ○「Ｑ」で単元のきっかけをつかみ、「例題」「たしかめ」「問」により演習を行ない、さらに「補充の問題」で理解を確かなものにするような構成になっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○巻頭で「数学的な考え方」を詳しく紹介し、本文でそれらが具体的に示され、この内容は、どんな数学的な考え方につながっているかわかるように示されている。 ○「学んだことを活用しよう」では、学んだことを活用してより深く考えたり、考えを広めたりする問題や、身のまわりの事象につながる問題が設けられている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○章のとびらでは、過去の数学的事象や実社会の先端テクノロジーなどに関する話題を扱い、これから学ぶ内容に興味・関心を抱くような工夫がされている。 ○「数学の広場」では、数学と現実社会や、数学にまつまる知識との結びつきを学び、学習内容を深めたり広げたりできるように工夫されている。
	資料	○巻末に「学びのマップ」が設けられ、1,2年で学習した内容と関連付けながら、3学年の学習を進めることができるようになっている。 ○「まなびリンク」の QR コードが設けられ、様々なシミュレーションを操作したり、動画で確認したりしながら、視覚的な支援ができるようになっている。
	表記表現	○章のはじめに、学習につながる課題「Let's Try」のページがあり、新しい学習のきっかけとして緑色丸囲み白抜きで「Ｑ」が設けられている。 ○新しい用語、記号はゴシック体の太字で示されており、必要に応じてふり仮名がつけてある。
総括		章のはじめに、既習事項を振り返る「学習する前に」のページがある。各章の最後には「章の問題」があり、その中には QR コードによるサポートがある。章末には「補充の問題」と「実力アップ問題」、さらにレベルアップした「総合問題」が設けられ、基本事項の定着から自分のレベルに合わせて活用できる構造になっている。「数学の広場」で様々な話題が扱われ、学習内容を深めたり広げたりすることができる。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（数学）

項目	未来へひろがる数学（6 1・啓林館）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○「例」「問」「練習問題」の構成で、デジタルコンテンツで用意された「補充の問題」や巻末の「力をつけよう」で類題に取り組むことができるようになっている。 ○学んだことを表現する力を身につけるために、「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」が設けられ、思考力・判断力・表現力が高められるようになっている。 ○巻末の「学びをいかそう」や章末の「数学ライブラリー」では、興味・関心を高めるように工夫され、数学を活用する楽しさが実感できるようになっている。	
特色	内容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「問」と「例題」が区別され、基本事項の習得、活用とステップが踏まれている。また「ふりかえり」を通して、既習事項を確認できるようになっている。 ○「問」のあとにはデジタルコンテンツの「補充問題」が用意されており、類題に取り組むことで内容の定着を図ることができるようになっている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○学習課題ごとに設けられている「ひろげよう」では、新しい学びが始まるきっかけとなるように工夫されている。 ○数学的な考え方が「たいせつな考え方」として分類され、問題解決のきっかけとして本文中に示してあり、解決の過程から学びを深めさせるような工夫がある。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「学びをいかそう」では、生活や他教科と数学との関わりを考えることができる題材が用意され、数学を活用したりさらに深めたりすることができる工夫がある。 ○各節の導入「節とびら」では、身近な話題から活用場面を取り入れ、これから学ぶ内容に興味・関心が沸くような工夫がされている。	
	資料 ○紙面に多くの QR コードが設けられ、例題の解説動画や補充問題など、学習の役に立つ情報や参考になる情報を見ることができる。 ○「学びをいかそう」が巻末に設けられ、数学を活用する楽しさが実感できるように工夫され、これからの学びにつなげることができるようになっている。	
	表記表現 ○見通しをもって学習を進めるために、「学習課題」は黄色の枠で囲まれており、ゴシック体で強調されている。 ○新しい用語、記号はゴシック体の太字で示されており、必要に応じてふりがながつけてある。	
総括	巻頭で「構成」、「使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。「例題」「問」の流れで学習を進め、「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」の学習過程で学んだことを表現し、理解を深めたり学びをひろげたりする活動ができるようになっている。 8つの「たいせつな考え方」を示し課題解決のきっかけを与える工夫がされている。例題の解説動画や補充問題などのデジタルコンテンツが充実している。	

研究調査報告書

教科名（数学科）

項目		これからの 数学（104・数研）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられ、既習の内容を再確認することができ、基礎的な内容の定着を図ることができるようになっている。 ○各章にある「TRY」では、生徒に考えさせるよう問いかけ、数学的活動を効果的に取り入れるように工夫されている。 ○章末の「学んだことを活用しよう」や巻末の「数学旅行」で数学を活用する楽しさが実感でき、巻末の「学びの自己評価」で一年間の学びの振り返りをすることができる。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○学習内容の定着を図るため、「例」「問」の構成になっている。「確認問題」、「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」は本文参照ページが示され、振り返りができる。 ○章末「問題A」「問題B」は、習熟度に応じて取り組むことができるように工夫されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「Q」や「やってみよう」では、答えを求めるだけでなく、説明する問いかけを多くしたり、対話によって数学的な見方・考え方を可視化したりしている。 ○「数学旅行」では、身のまわりの日常生活に関する数学を深掘りすることができ、数学的活動を通して主体的に解決を目指す構成となっている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○章の導入では、身近な話題を取り上げ、これから学ぶ内容に興味・関心が持てるように工夫されている。 ○巻頭に学び方のガイダンスで「学習に役立つコンテンツ」「学習の進め方」「ノートづくり方」「レポートの書き方」、巻末に「学びの自己評価」が設けられている。
	資料	○学習している内容と関連した身近な場面や日常生活を気づかせるような写真が、効果的に用いられている。 ○デジタルコンテンツが使える内容に「Link」マークが付いている。補充の問題や動画・アニメーション、関連資料、グラフ・図形、探究課題が用意されている。
	表記表現	○新しい用語、記号は太字ゴシックで示され、必要に応じて振り仮名がつけてある。また、重要事項は、「まとめ」として青の枠線で囲われている。 ○色づかいやユニバーサルデザインに配慮され、多くの人が利用されやすいようになっている。
総括		章のはじめには、既習事項を再確認する「ふりかえり」と学びのきっかけになる章のとびらが設けられている。学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」マークで示し、学んだことの理解を深めることができる。また、巻末の「数学旅行」では、身のまわりの事柄を中心とした様々な話題を取り上げ、本冊で学んだ内容から新たな疑問や課題を見いだし、数学的活動を促す工夫がされている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 数学 ）

項目		中学数学（116・日文）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「Q」「例」「問」の流れで段階的に学習し、基礎・基本の定着を図るために「まちがえやすい問題」「説明できるかな」が設けられている。 ○「学びに向かう力を育てよう！」の項目が設けられており、それぞれの学習場面で働かせる数学的な見方・考え方が示されている。 ○「問」に「考えよう」「話し合おう」「深めよう」のマークが付いているものがあり、様々なパターンの活動で問題を解決する場面が設けられている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「Q」「例」「問」と学習し、「基本の問題」「章の問題」で繰り返し問題を解くことで、基礎的・基本的な内容の習得ができるように工夫されている。 ○章のはじめに「次の章を学ぶ前に」で、既習事項を確認できるように構成されており、新しい内容を学習する上で必要な点を復習することができる。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○重要な場面には「大切な見方・考え方」が載せられており、そこを確認することで考える上でのヒントになっている。 ○巻末の「数学 マイ トライ」には、一人一人の学習状況に応じて取り組める問題や、学んだことを広げたり深めたりする課題が載せられている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○キャラクターの言葉で学ぶ意欲を引き出す工夫があり、また、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「SDGsと数学」「数学を仕事に生かす」「数学研究室」「プログラムと数学」では、学習内容に関連したコラムや課題を扱い、興味が高まるような工夫がされている。
	資料	○写真や図が大きく掲載されており、具体的な場面や日常生活との関連が想起できるように工夫されている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には QR コードが付けられており、学びに役立つアニメーションやシミュレーション、練習問題などにアクセスできる。
	表記表現	○新しい用語・記号は薄緑色の枠の中にゴシック太字で表示されており、必要に応じて振り仮名もつけられている。 ○章の始めには、「～かな？」という問が用意されており、キャラクターとの対話の中で考えを進めていけるようになっている。
総括		巻頭に、「この本の使い方」「数学の学習を始めよう！」「学びに向かう力を育てよう！」「数学的な見方・考え方を身につけよう！」「ノートのかふう」「ICTを活用しよう！」などが掲載されている。また「章の問題」のあとには、「とりくんでみよう」が設けられており、習得の段階や興味・関心に応じて取り組むことができようになっている。さらに「説明できるかな」の間でより深く考えられるようになっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名 (理科)

項目		新編 新しい科学 （２・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○表紙から探究のテーマが示されていて、見通しを持ちやすい。 ○課題の把握・探究・解決の流れがわかりやすく示されている。 ○「Before&After」が単元冒頭と単元末に示されており、探究の流れができています。単元内の各章にも「Before&After」がある。 ○アイコンで育てる資質を表示し、ページの下に「学びのフローチャート」があり、授業の流れを追いやすい。 ○ふせんを活用した思考の整理方法が度々登場し、授業で取り入れやすい。
特色	内容	○知識及び技能 ・実験器具の使い方を QR コードから動画で見ることができる。何度でも各自のペースで確認することができる。 ・危険を伴う実験では、「注意マーク」が付いていて、目に留まりやすい。 ・単元末問題の QR コードがあり、基本的な知識が身に付けやすくなっている。 ・数時間に一度、活用問題が設定されていて、レポートの例が示されていることがある。 ○思考力・判断力・表現力 ・生活に関連しているデジタルコンテンツも多く、補足実験などにも映像資料が用意されているため、教科書に載っているもの以外での実験の様子や考察の違いなどを確認することができる。 ・章ごとに単元を貫く問いが設定され、振り返りの際にキーワードが提示されている。 ・考察の視点や議論の仕方が簡潔に説明されている ○学びに向かう力・人間性等 ・全学年に、自然災害に関する記述があり、防災・減災教育にも写真を交えてわかりやすく触れている。 ・対話例があちこちに掲載されており、協働的に学習しやすくできている。逆に丁寧すぎて、生徒の思考が阻害されやすい。 ・社会につながる科学があり、職業と既習内容のつながりを知ることができる。
	資料	○一人一台端末を意識した構成があり、ICT 機器の活用法についても例示されている。 ○QR コードを有効活用し、ワークシートや動画、テストをすぐに見ることができる。 ○写真が大きく、量が豊富である。生徒の興味関心を引きやすい。 ○本の紹介があり、自主的な学習を促している。
	表記表現	○観察・実験や思考の流れが一貫していて、わかりやすい表記になっている。 ○ほとんどの実験・観察が 1 ページ以内で終わっており、思考の流れが作りやすい。 ○イラストによる吹き出しが多用されていて、考えるべきことが明確に示されている。 ○文章は漢字で構成されており、初出や難読な漢字にはルビがふってある。 ○目次がカテゴリー別になっていて探しやすい
総括		○写真資料やデジタルコンテンツも豊富であり、授業内で取り扱う観察以外にも、補足部分での実習資料なども用意されており、生徒が学習する際のイメージの補足や探求の助力になる工夫がなされている。 ○図がとても親しみやすいものが多い。図の一部を Think として切り抜いている。 ○のどに文字がなく本文が読みやすいが、やや文字は小さい。

第 2 5 採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 理科 ）

項目	理科の世界 （４・大日本）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○単元の最初に各章のタイトルと簡単な内容が示され、見通しをもって学習しやすい。 ○「これまでに学習したこと」で小学校での既習事項に触れていて、丁寧に復習できる。 ○単元末の探究活動があり、課題解決を行う学びを行うことができる。 ○探求の過程について、各学年に重点項目を設け、強調している。（１年は問題をみつける、３年は振り返る 等） ○導入で身近な例を用いる、「くらしの中の理科」を設定している。
特色	内容 ○知識及び技能 ・章末に「単元のまとめ」が用意されており、章内で扱われているものが定義と共に整理されている。 ・基本操作で技能が身に付けられるように工夫されている。 ・既習事項に図がついていて丁寧である。 ・実験が数多く取り入れられている（スモールステップで取り組める面もあるが、授業時数が多くなりすぎてしまう面もある） ○思考力・判断力・表現力 ・キャラクターの問いかけや発言により、ヒントをもらいながら自分の考えを持てるように作られている。 ・太字を用いた語句の説明が少なく、「考え方」「定義」などが丁寧に説明されている。 ・イラストと共に、現象の経過の説明がなされている。 ○学びに向かう力・人間性等 ・SDGs やキャリア教育、防災減災など、身近な内容が多く取り上げられていて、科学と生活の関わりを学びやすく、生徒の学習意欲の向上につながる。 ・「地学＝地理」のつながりを意識して、資料が設定されており、他教科との連携が工夫されている。日本の地図と比較することで、より多くの地形的な特徴を扱う工夫がなされている。 ・暮らしの中の理科や SciecePress で日常と理科の関りが記載してある。
	資料 ○QR コードは、基本的な操作について掲載している。基本操作は充実していて、簡単で分かりやすい作りになっている。 ○目次を詳細にしている。 ○資料は豊富だが、学習内容との関連が最適でない場合もある○図の配置が、前後の関係が分かりにくくなっているものがある。
	表記表現 ○グラフが全体的に小さい。情報は、まとまっており、他の掲載事項に影響は及ぼしてはいない。 ○「課題を見つけよう」「計画を立てよう」などのスタンプがある。全て同じ色・同じデザインで統一されている。 ○本文が中央に寄せてあり視野は集中するが、やや文字が読みづらい印象を受ける。
総括	○語句や資料だけでなく、事象・事実の「経過」に注目して文章が構成されているため、知識だけでなく、思考・表現力も身に着ける工夫がなされている。 ○発問と振り返りが設定されている。 ○生物の分類において、生のイワシとエビを使う場面があるため配慮が必要である。（他の教科書は煮干しと干しエビ）

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 理科 ）

項目		中学校 科学 （11・学図）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「Can-Do List」が単元ごとにあり、生徒の目標が明確である。 ○1時間ごとに課題がわかりやすく示されている。教科書の最後に「この時間の見方」「考え方」「まとめ」が掲載されていて、授業案の参考になる。 ○観察・実験の欄では「理路整然」コーナーがあり、結果や考察の考え方や測定に関する知識などが書かれており、よくある生徒の疑問に答えている。 ○単元の初めでこれまでの学習と目標が明確に書かれているので見通しをもちやすい。
特色	内容	○知識及び技能 ・単元の終わりに「学習のまとめ」があり、ステップ1と2に分かれている。「用語」「問題」に分けた方がわかりやすいように感じる。 ・器具の使い方が詳しく載せてあり、技能の確認ができるが、最初に使用するページにガスバーナーの使い方が掲載されていない。 ・単元末に学習のまとめと問題があり、学習内容の定着が図れる。 ○思考力・判断力・表現力 ・実験に「結果から考察する」の欄があり、生徒が理解すべき内容がしっかり記述されている。 ・実習や実験の結果が大きな写真で並んでおり、実際に実験結果がうまく出なかったときでも、教科書を用いて比較し、詳細まで表現できる工夫がなされている。 ・気づき、課題、仮説、計画、方法、結果、考察と実験に細かく記載されていて、思考の流れが明確になっている。 ・巻末に、計算問題や全学調の過去問解説が掲載されている。 ○学びに向かう力・人間性等 ・1年：探究の考え方、2年：条件制御、3年：「科学は正しい」、といった学年ごとのテーマがあり、発達段階に応じて探究する資質能力が身に付きやすい。 ・読み物資料が多く、興味関心のある生徒はさらなる好奇心が育まれる。 ・SDG s のマークがたくさん載っていて、日常とのかかわりを意識しやすくなっている。 ・巻頭に「なぜ理科を学ぶの？」が漫画で示され、学ぶ動機付けになっている。
	資料	○説明用の写真やグラフが大きく、とても見やすいし、説明の時にわかりやすい。 ○どのページのQRコードも「ミライ教科書」の目次にいける。 ○巻末資料が豊富で、基礎技能等がまとめてあり、授業ごとに必要な資料のページが示されている。親切だが、授業の際にページの移動がある。
	表記表現	○実験観察で危険なところには「注意！！」の欄があり、黄色地に赤文字で記載されているので、注目しやすい。 ○重要語句として取り扱われているものが多く、語句の説明も簡潔に整理されている。 ○教科書の使い方や単元の表紙など、1ページに収まっているが、字が小さい。 ○枠に使われている色が強い。
総括		○最小必要時間数が比較的少なく設定されているため、教科書の内容は簡潔に整理されている。基礎基本を行った上で、学習の深まりを作るための時間的配慮がなされている。 ○分類について、1年次から枝分かれの記載をしている。 ○メインの紙面をできる限り小さくしているため、授業は滞りなく終了し、後半に演習を確保できる点で非常に実務的である。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 理科 ）

項目	自然の探究 （１７・教出）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○教科書の最初に折り込みがあり、「探究の進め方」が３ページにわたって説明されている。理科の見方・考え方を学ぶ上で分かりやすい。 ○章の初めに「学習前の私」、終わりに「学習後の私」があり、課題解決の流れがわかる。 ○単元の初めにある「学んでいくこと」を通し全体の学習内容を把握することができる。 ○「言葉」の取り扱いについて、ルビを繰り返しつけてあること、言葉の定義や補足説明も丁寧に行われており、学習時のつまずきを取り除いてある。	
特色	内容	○知識及び技能 ・QRコードは基本的な器具の使い方や操作の仕方のみで、全体として少ない。 ・単元の終わりに「要点と重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」があり、デジタルコンテンツには、解説も用意されている。 ・計算の問題では計算過程が記載されていて、復習しやすくなっている。 ・実験方法が丁寧に示され、活動例もあり低位の生徒も取り組みやすい。丁寧すぎて思考の広がりがない懸念はある。 ・禁止・注意等のアイコンが最上部に表示されている。 ○思考力・判断力・表現力 ・探究のステップが１～４に分かれて、疑問⇒仮説⇒実験⇒結論の流れがわかりやすい。 ・探求の進め方や疑問から探してみよう、などの「探求する力」を身に着けるためのコンテンツが設定されている。 ○学びに向かう力・人間性等 ・「私のレポート」のページがあり、主体的な学びを支えるレポートが作成しやすい。 ・実験の後に「話し合おう」のスタンプがあり、話し合いをするテーマがいくつか掲載されているので、話し合い活動を行いやすい。 ・小学校からの接続を意識した記述が豊富にある上に、側注が少なくシンプルなレイアウトのため、教科書の内容や資料に集中できる。 ・豊富なデジタルコンテンツが用意されており、地形の３Dモデルや星座の早見表が立体的に見られるなど、地学実習分野のコンテンツも豊富である。
	資料	○QRコードは少なめだが、「要点チェック」や「Webずかん」など授業で使いやすい。 ○他教科との連携に関する記載もあり、カリキュラムマネジメントを考慮している。 ○高等学校への接続の内容や学力調査などへの対策問題も豊富である。 ○巻末に基礎技能や「ハローページ」の目次が示されている。 ○資料が随所に織り込まれており興味を引くが、文字が小さい。
	表記表現	○重要語句が単なる太字ではなく、赤い文字になっていて、生徒の印象に残りやすい。 ○文字が大きめで読みやすい。 ○学年に合わせて、フォントの大きさが調整されている。
総括	○実験結果例は少しボリュームが足りない気がする。 ○グラフの書き方良い。⚠マークが大きく目を引く。 ○図が大きく、整頓されており見やすい。 ○非常に丁寧な構成であるが、やや文字数が多い。	

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 理科 ）

項目	未来へひろがるサイエンス （61・啓林館）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習の「探究の流れ」をしっかりと抑えられていて、そこから教科書が構成されているので、探究する力を育てる一貫した流れができている。 ○「探Q実験」というタイトルで、生徒が主体的に探究する場面を多く取り入れている。 ○探求の過程を図表と漫画でわかりやすく表現している。この漫画の具体例が身近で平易でありつつ、学習内容とも重複しないものになっている。	
特色	内容	○知識及び技能 ・単元の前に、「サイエンス資料」があり、観察や実験を行う上での注意事項や実験機器の使い方がまとめて掲載されている。 ・実験器具の使い方、丁寧な記載でページ数が多い。 ・単元の最後に「学習のまとめ」と「力だめし」があり、習得した知識を確認できる。 ・実験のページでは、「解説動画」がQRコードで紹介されている。 ・注意すべき危険のアイコンが観察実験の最上部に明記されている。 ・生物の観察が、資料にも生徒にも無理のない内容で設定されている。 ○思考力・判断力・表現力 ・実験が1ページに1つ掲載されていて、生徒の思考を妨げない作りになっている。 ・「？」の欄があり、課題が明確に示されている。随所に「考えてみよう」の欄があり、生徒が思考すべきことを明確に示している。 ・実験の際「探Qシート」を用いて、対話的な学びを実践できるようになっている。シートには「仮説欄」があり、生徒の考えの変化が見て取れる。 ・単元を貫く問いが設定され、内容が具体的に生活と結びついている。 ・ベン図やマトリクス等の思考ツールの使用方法が、巻末資料に示されている。 ○学びに向かう力・人間性等 ・実験の際に用いる「探Qシート」では、主体的・対話的な深い学びを意識して作成されており、活発な意見交換ができるようになっている。 ・単元や章の導入が工夫されていて、日常的な不思議を題材にした写真が多い。 ・「みんなで探Qクラブ」が単元末にあり、日常の疑問を科学的に考える機会がある。 ・生徒役に様々な性別や人種が設定されている。
	資料	○導入のはてなスイッチの資料が問題を見だしやすくなるような作りになっている。 ○口絵に目を引く写真が使用されており、四単元にまたがる内容の興味を喚起できる。 ○探究的学習のしかたについて、表現、発表、議論の方法が巻末資料に示されている ○動画コンテンツが豊富で、表紙のQRコードから全てのコンテンツの目次に行く。 ○目次内に資料が種類別に整理され、探しやすい。
	表記表現	○写真やイラストが大きく、とても見やすい。 ○紙面内で視点が直線的に動くように構成されており、流れがわかりやすい。 ○単元名が「地球・生命・物質・エネルギー」と表記され3年間を貫くものになっている。 ○資料の見出しが平易な言葉と外来語で表され、内容を推測できるようになっている。
総括	○SDGs、防災、お仕事と幅広く抱えありがまとめられている。 ○QRコードが資料に直接リンクされ、授業中のストレスやタイムロスがない。 ○「ためしてみよう」の観察実験が多数組み込まれており、1時間に1実験実施することができる。授業に取り入れるか否かを教員が選択することができる。	

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 音楽 ）

項目	中学音楽 音楽のおくりもの （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○幅広い活動を展開できるように豊かな色彩で、生徒の感性を刺激し、音のイメージを膨らめることができる編集になっている。 ○「くらべてみよう」では、音楽的な見方・考え方を比較検討し、表現の工夫を考えながら学びを深めることができる。 ○日本古来の音楽から世界の音楽、更には、ポピュラー音楽やロック、伝統音楽を継承する子どもたちの様子まで取り上げている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○説明文は、とても詳しく解りやすい言葉で書かれている。エピソードなども記されており、生徒の興味を引き出す書き方となっている。 ○共通教材には、A Message for You で作者の思いを記してあり、曲に込めた作者の思いから深い学習に結び付けることができる。 ○新しい音楽記号は右ページにまとめられており、知識や技能の習得に生かされている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○学習のねらいが示されているものの、それ以上の表記が少ないため、生徒が先入観なく考えることができる。生徒の学びに深まりが期待できる。 ○創作では、身近なものを取り上げて活動を広げており、さまざまな生徒に対する指導者の柔軟な対応が期待できる。 ○歌いやすい合唱曲を多く取り入れ、生徒の柔軟な思考・表現を引き出しやすく編集されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○巻頭では、若手芸術家が音楽について語っていて興味深い。 ○学習 MAP は、学習のつながりが見え、興味関心を掻き立てている。 ○Sing! Sing! や Let' s Try! では、既習の楽曲で音楽表現の豊かさ追求について触れている。生徒が解りやすい言葉やイラストで記されている。
	資料 ○自筆譜が掲載されていて、生徒の興味を高めている。 ○国歌は、字が大きく紙の種類を変えているので、重さを感じる。 ○肖像で見る音楽年表は、見開きで一目でわかるようにまとめられている。 ○鑑賞教材のページには、右端に時代区分と作曲者の位置づけが示されている。
	表記表現 ○赤で記されたものがない。ユニバーサルデザインを意図した編集になっている。 ○曲のイメージに合った写真やイラストの大きさ、量、配置になっている。 ○楽典が見開きで見やすく、一目で確認できるページ構成になっている。
総括	生徒の実態に応じで、指導者が学習展開を工夫しやすい編集になっている。必要な説明は、詳しく生徒が解りやすい言葉で記してあるため、深い学びにつなげることにもできる。音楽史も解りやすくまとめられており、音楽の種類も多岐にわたって取り上げている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 音楽 ）

項目	中学器楽 音楽のおくりもの （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○器楽学習が基礎的な内容から順を追って取り組めるように編集されており、音楽を愛好する心情を育むことができる。 ○簡単な楽曲に取り組みながら音楽的な見方・考え方に気付かせ、曲想や音楽の多様性にまで追求できる。 ○「吹く楽器」「弾く楽器」では、世界の民族楽器にまで目を向けることができる。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○アルトリコーダーやギターは、基礎的なことからレベルを上げていく過程がスムーズな教則本になっている。 ○リコーダーでは、楽譜のすぐ横に運指が記されていて解りやすい。 ○注釈の説明は、生徒にとって解りやすい言葉で記されている。また、手元の写真は見やすく、真似から指導を深めることができる有効なものとなっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○音のスケッチでは、前奏を作ってみようなど、考えさせる内容が含まれている。 ○表現の仕方を調べたり、比べたり、考えさせたりするページが設けられている。 ○たとえ短い曲でも明確なねらいが示されており、考えながら表現を追求できる教材集になっている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○アルトリコーダーでは、練習曲の後に「まとめの曲」があり、達成感を味わうことができる。 ○ひとつひとつのねらいを積み重ねていくことで学びが高まり、感性豊かで音楽を愛好する心情を育むことができる。 ○既習の楽器を使ってアンサンブルできる楽曲を取り入れ、仲間と共に創り上げる喜びや楽しさを味わえる編集になっている。
	資料 ○小学校の既習曲や漫画の主題歌などが数多く取り上げられていることから、生徒にとって親しみやすい曲集になっている。 ○QRコードの「学びリンク」は、学習を膨らめやすい。 ○ギターコードのページは、写真なので指の形が解りやすい。
	表記表現 ○楽器別にページが区切られているので、扱いやすい。 ○学習のねらいや練習曲の学習のポイントが示されていて、身に着けるべき技能が明確になっている。 ○練習(曲)1、練習(曲)2と示されていることから、ステップが解りやすい。
総括	学習のポイントが明確に示され、体系的にまとめられた曲集・教本のようになっている。写真やイラストが効果的に使われていて、指導しやすい。Let's Try のアンサンブルの楽譜は、楽器がなくても取り組むことができるものもあり、生徒にとって取り組みやすく、成就感を味わうことができる。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 音楽 ）

項目	中学生の音楽 （27・教芸）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○巻頭から若手芸術家のメッセージや「音楽って何だろう」で実生活との関わりに触れている。動画で語り掛ける QR コードは効果的である。 ○イラストが問いや学習の方向性を示したり、曲想と音楽との関りを結びつけたりして学びを深めている。 ○イメージから社会を映し出す音楽まで幅広く取り上げ、豊かな感性と音楽に親しむ態度を育てている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○楽曲や題材には、学習の主眼となる共通事項が記されている。 ○中学一年の入門期に My Voice が位置づけられ、生徒が自身の体の変化に留意しながら学習できる機会となり、効果が期待できる。 ○左ページには大目標がインデックス化され、曲名の下には大目標を受けた学習内容が明記されており、確実な学習展開が期待できる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○楽曲には「～だろうか」と問う掲示板（学びのコンパス）が設けられ、音楽の諸要素等から自らが考えて音楽の良さに気付かせる工夫がみられる。 ○イラストが、効果的な発想や問いかけをして学習を導いている。 ○「学びのコンパス」「My Melody」「Let's Create!」は、手順良く自分で記しながら学習を深めることができるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○QR コードは、カラピアノやワークシート、資料などが盛り込まれていて自宅でも再生できることから、学びを広げることができる。 ○「生活や社会の中の音や音楽」では、音楽が身近なものであることを示している。 ○中学一年から著作権について位置づけられていることから、SNS が身近な生徒たちには良い内容になっている。
	資料 ○QR コードの内容が効果的に編集されていて、音楽室内外で利用できる。 ○「社会を映し出す音楽」では、幅広い音楽が取り上げられている。 ○「運命」のオーケストラの演奏の写真は、躍動的な写真を使っている。 ○「音楽を形づくっている要素」は、イラストや図もあって解りやすい。
	表記表現 ○「日本音楽入門」では、三年間で学習する日本の音楽がまとめられている。時代と共に変容を見取ることができることから、効果が期待できる。 ○表紙をつなげると1枚の絵になり、3年間の学習のつながりが見える化されている。 ○実物写真とイラストを織り交ぜて、生徒に親しみやすい編集になっている。
	総括 深い学びに導く資料や工夫が数多く盛り込まれている。QR コードを効果的に取り入れ、授業に広がり期待できる。イメージが想像できる写真や親しみがわくイラスト、更には、若手芸術家のメッセージを取り入れ、生徒たちの学習に対する興味関心を高めている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 音楽 ）

項目	中学生の器楽 （27・教芸）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○容易な曲で演奏技能の向上を図り、音楽を愛好する心情を育んでいる。 ○アルトリコーダー、ギター、和楽器を主として扱い、表現力豊かな奏法に触れたり、アンサンブルで豊かな響きや表現を体感できる編集である。 ○生涯にわたって音楽と関わっていくことができるように、地域の伝統芸能やバンドに至るまで、広いジャンルの音楽を取り上げている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○音楽室にある多種類の小物楽器の名前とその奏法について触れるページを盛り込み、合奏の学習に生かすことができる。 ○アルトリコーダーの息の指導で難しいとされるアーティキュレーションについて、四つの奏法を解りやすくまとめている。 ○姿勢や構え方は、写真やQRコードの動画で解りやすく示されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「My Melody」では、QRコードで創作ツールも加えられ、学習を補助している。そして、自身の思いや意図をもって学習が深められるようになっている。 ○「いろいろな奏法」では、代表的な演奏方法や奏法の違いを示し、表現の違いやその表現の豊かさに気付けるようにしている。 ○アルトリコーダーでは、LESSON1から順番に進めることで技能が高まり、一人での演奏から合奏に発展できる編集になっている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○自宅でもQRコードの伴奏に合わせて、演奏を楽しむことができる。 ○いろいろなギターが並べられ、生徒の興味に広がりがある。 ○「バンドの世界をのぞいてみよう」では、生徒たちにとって身近で興味を持つバンドのスコアが入っており、今後音楽と関わってくれることが期待できる。
	資料 ○アンサンブルでは、生徒が耳にしたことがある曲をたくさん掲げている。 ○QRコードには、伴奏や生徒の思考を深めるワークシート、芸術家からのメッセージなどが効果的に盛り込まれている。 ○「楽しもう！和楽器の音楽」では、中学生が和楽器に取り組む写真や言葉が載っている。
	表記表現 ○写真や絵、イラストが効果的に使われている。 ○「日本の伝統音楽の楽器編成」では、各和楽器が一目で見えるように工夫されており、振り返り、既習内容と比較できる。 ○和楽器には「唱歌」が効果的に記載されている。
総括	QRコードが効果的に位置づけられており、深い学習を追求するばかりでなく、演奏技能の習得やひとり学習できるなど、音楽を愛好する心情の育成と人間性等を涵養する工夫が盛り込まれている。生徒に寄り添った写真やイラスト、選曲、編曲作品が使われており、使いやすく編集されている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（美術）

項目		美術（9・開隆堂）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○育成する資質・能力である（１）「知識及び技能」（２）「思考力、判断力、表現力」（３）「学びに向かう力、人間性等」が、各題材のページに記載されている。 ○小・中・高の連携を考え、中学校段階の感性や能力の発達に対応する系統的な題材が幅広く設定されている。また、各題材の目標と豊かな発想を引き出すポイントが具体的に示され、生徒が主体的に学び、豊かな情操を養うよう工夫されている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○各題材の目標において「3つの柱」をそのまま3観点とすることで、目標の明確化を図っている。また、各題材の主文において「形や色彩」、「動きや表情」といった生徒に着目させたい造形的な視点が明記されている。 ○各題材のページ上に「CONTENTS」というQRコードがあり、タブレット端末等で読み込むと道具や技法等に関する映像を視聴し、学ぶことができる。その内容は、指導する教員も教材研究に活かすことができる。また、学習する上で参考となるページを示すマークがあり、リンクさせることで学びを深めることができる。 ○「学びの資料」が記載されており、絵画・デザイン・工芸分野等の基礎的・基本的な知識・技能に関する情報がまとまっていて、授業で活用できる。 <思考力・判断力・表現力の育成> ○鑑賞欄には名画・名作が紹介されていて、作者や作品解説が分かりやすい。中には原寸大の作品図版もあり、実際の大きさをイメージすることができる。 ○鑑賞欄で紹介されている作者・作品は、映画監督の新海誠や人気漫画ブルーロック等、生徒の関心を惹く最近の物から、歴史ある有名な芸術家まで多岐にわたる。以前の教科書より紹介作品が増え、図版の配置も大胆でインパクトがある。 ○参考作品の解説文として示されている「生徒の言葉」は、発想や構想の工夫など心情面から作品理解に役立つよう配慮され、生徒の作品を掲載した意図が伝わる。 <学びに向かう力、人間性を涵養するための効果的な工夫> ○美術1においては造形的な視点や多様な表現との「出会い」を、そしてそこから「やってみる」ことに主眼を置いて構成している。図画工作から美術へ変わっていく流れや美術で学ぶ内容、その意義について、写真・作品・解説を用いながら分かりやすくまとめている。 ○美術2・3においては全体を通して美術史の変遷や現代における美術の多様な捉え方を念頭に置いた構成となっており生徒の養うべき力が段階的に明確化された構成となっている。義務教育を終え社会へ出ていく中学生に向けたメッセージが記載されており、生活や社会の中で美術や美術文化と豊かに関わることの大切さが伝わる内容となっている。
	資料	○教科書に掲載されていない参考作品や作品について解説したウェブページのQRコードを掲載することによって、情報量の補充を図っている。これにより、生徒の適性や処理能力に合わせて提示する情報を調節することも可能となる。 ○折り込みページが効果的である。
	表記表現	○2冊とも表紙のテクスチャーを工夫しており、実際に芸術作品に触れているような感覚を覚える。様々な部分に生徒の関心を惹くためのこだわりが感じられる。 ○文章に「ふりがな」が多く、漢字が苦手な生徒や読字障害の生徒でも読みやすい。文字は丸ゴシック体が多く、柔らかい印象を与える。
総括		○各学年の発達段階に対応した系統性を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」の視点で構築し、有効な積み重ねができるようになっている。つながりを持って指導できるように工夫されており、「美術とは何か」「美術を学ぶ意味」を生徒たちが主体的に考え、意欲的に学習できるようになっている。 ○学習をサポートするキャラクターや効果的な学習を図るためのマーク等、工夫が多くあった。内容全体がパステルカラーでまとまっているため、文章や作品も見やすい。教科書はやや重い、授業で活用できる場面が多くあると考える。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（美術）

項目	美術 （３８・光村）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○育成する資質・能力である（１）「知識及び技能」（２）「思考力、判断力、表現力」（３）「学びに向かう力、人間性等」が、各題材のページに記載されている。 ○生徒に身近な題材、伝統文化、作家の作品の制作意図や心情などを大きな図版とともに紹介することにより、美術文化への理解を深めさせ、豊かな心情を育てると共に基礎的能力を伸ばす工夫がされている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○巻末の技法に関する資料は、丁寧に解説されていることに加えて、技法や作業工程について解説した動画のQRコードを掲載しており、技能の習得に役立つ。ウェブコンテンツの数が多く、家庭学習の可能性を広げる。また、立体を回転させて鑑賞できるコンテンツなどの工夫がみられる。 ○別冊「美術 1 資料 つくってみよう 見てみよう」にも、知識・技能に関する情報が分かりやすく記載されており、魅力的な誌面となっていた。 ＜思考力・判断力・表現力の育成＞ ○鑑賞欄である「体感ミュージアム（ウェブコンテンツ）」は名作への理解を深めるだけでなく、作品制作のヒントとなる見方・考え方を広げることができる。 ○各題材の主文は詩的で、注目させたい造形的な視点に基づく内容でまとめられ、これを読み上げるだけでも生徒は自ずと題材に対するイメージを広げることができる。 ○各題材において「発想・構想」と題したコーナーが組まれ、順を追った制作の様子や制作する生徒の姿を掲載することによって作品完成までの経緯が明示されている。苦手意識を持つ生徒でも構想をイメージしやすい。 ＜学びに向かう力、人間性を涵養するための効果的な工夫＞ ○冒頭のオリエンテーションが丁寧で、３年間を通して美術的な視点を明確に持ちながら学習を進められるように工夫している。 ○教科書は２冊とも「うつくしい！」をテーマにまとめている。身の回りにある美しいものを撮った写真や作品が詰まったページ構成で、見ていて飽きない。多感な中学生の心に響く内容となっている。また、各ページの下に「道徳科とのつながり」や「SDGs」の目標番号が記載されており、生徒が自分との関わりの中で美術や美術文化を捉え、生活や社会と豊かに関わることができるよう、繋がりを意識した授業づくりができるよう工夫されている。 ○著名な作品の選定に当たっては、題材と関連させて注目しやすいポイントを含むものが多く、また話題性や世界的な美術の多様性への気づきを大切にしている。
	○特殊紙の綴じ込み、質感の異なる紙を使用するなど、触覚からも表現の多様性に気づかせる工夫をしている。 ○巻頭、巻末に谷川俊太郎の詞「うつくしい！」を大々的に掲載することにより、一人ひとりの、また歴史的な文化の違いによる美術的な視点の多様性を印象づけられるよう工夫している。
	○図版や写真のキャプションには、作品の名称、材料や技法、大きさ、制作年、作者名と生没年・出身地が示され、適宜、簡潔な解説文が添えられており、学習を進めるうえで有効な情報となるように配慮されている。 ○説明的ではなく、多くの作品を紹介することで、発想が膨らむ構成となっている。 ○文章に「ふりがな」が多く、漢字が苦手な生徒や読字障害の生徒でも読みやすい。
総括	○美術 1 では、幼児教育や図画工作とのつながりを考え、美術 2・3 では、身に付けた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関係に視野を広げるなど、内容の系統性や学年の発達段階に配慮した構成になっている。 ○効果的な学習を図るためのマークや面白いページ構成等、工夫が多くあり、文章や作品も見やすい。技法面は別冊の「資料」が参考となり、魅力的である。

第 2 5 採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（美術）

項目	美術（116・日文）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○育成する資質・能力である（１）「知識及び技能」（２）「思考力、判断力、表現力」（３）「学びに向かう力、人間性等」が、各題材のページに記載されている。 ○古くからの美術作品や身近な工芸品から、世界の美術へと広げていく工夫があり、活動を通して人間の想像力のすばらしさを感じ取らせる題材の設定がなされている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○各題材のページ上に二次元コードがあり、タブレット端末等で読み込むと学習の参考となる資料や映像を視聴し、学ぶことができる。指導する教員も教材研究に活かすことができる。また、「ICT」マークがあり、タブレット端末を活用して取り組む内容が記してあるのも良い。 ○全ての題材において「造形的な視点」と銘打った吹き出しが設けられている。 ○3冊とも「学びを支える資料」が掲載されており、絵画・デザイン・工芸分野等の基礎的・基本的な知識・技能に関する情報がまとまっていて、授業に活用できる。3冊とも内容が異なり、各題材に必要な知識が丁寧にまとめられているため、とても分かりやすい。 ○巻末の技法に関する資料は丁寧に解説されており、技能の習得に貢献する。また、表現に関するそれぞれのページにも、（例えば木工のページでは仕上げの種類を開設するなど）技能面での知識が豊富に掲載されている。 ＜思考力・判断力・表現力の育成＞ ○アイデアスケッチを積極的に掲載することによって、発想の段階に必要な作業そのものが理解しやすくなっている。 ○白地を基調とし、余白を意識した誌面のデザインは装飾を抑えたシンプルな構成となっている。余計な刺激がなく、必要な情報がしっかりと入ってくるのが良い。 ○発達段階を考えた3冊構成となっている。表紙・巻頭から題材に繋がる流れになっていて、導入で使いやすい。 ＜学びに向かう力、人間性を涵養するための効果的な工夫＞ ○生活や社会に繋がる事例を多く記載し、美術が卒業後も自分の人生に彩りを与えてくれる存在だと分かるページ構成となっている。美術2・3下には、義務教育を終え社会へ出ていく中学生に向けたメッセージが記載されており、生活や社会の中で美術や美術文化と豊かに関わることの大切さが伝わる内容となっていた。 ○著名な作品の掲載に当たっては世界的に著名な作家、話題性のある作品や社会科で学ぶ作品など、美術の授業以外でも生徒との接点が想定されるものが多く選定されている。
	○特殊紙の綴じ込み、質感の異なる紙を使用するなど、触覚からも表現の多様性に気づかせる工夫をしている。 ○鑑賞に主眼を置いた作品の掲載においては、印刷技法や紙質にまで留意することで、それを生徒全員が手元に置いて鑑賞できるため、鑑賞の授業をより充実させられる。
	○全体を通して発問やアドバイス形式の文が多く、造形的な視点でとらえる手がかりとなる。 ○3つの出版社の中で一番シンプルなレイアウトの教科書だった。 ○「資料提供・協力」の一覧を内側に記載することで、表紙・裏表紙を開くと一つの作品として鑑賞できる工夫が良い。また、文字は教科書体とゴシック体が多く、字間に余裕があり、読みやすい。
総括	○美術1では、「美術との出会い」で、美術2・3上では「学びの実感と広がり」、美術2・3下では「学びの探求と未来」として、発達の段階に応じて学びを深められるように系統性に配慮して題材を配列している。 ○「学びを支える資料」が充実していた。もう少しふりがなが多いと、漢字が苦手な生徒や読字障害の生徒も学びやすい。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（保健体育）

項目		中学校保健体育 (2・東書)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○基礎的・基本的な知識の習得のために「学習課題」と「課題の解決」では、学習のねらいと知識の幅を広げる学習を、「活用する」「広げる」では、生活で活用できるような確かな知識を習得する学習がある。 ○思考力・判断力・表現力を育成するために、課題の発見や知識の活用、自他の生活への適用という学習活動を設けている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○1 見開きを1 単位時間とし、資料を適所に使用する構成になっている。 ○「キーワードの解説」の QR コンテンツが用意されており、基礎的・基本的な知識の習得を図ることができる。 ○各章末には、章末問題の QR コンテンツが2 種類あり、生徒が自主的に取り組み、知識の習得を図ることができる。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」では、思考力、判断力、表現力を育成することができるような発問が設定されている。 ○思考、判断、表現を助ける思考ツールが QR コンテンツとして掲載されている。 ○「活用する」では、習得した知識・技能を活用してより深く考える活動が設定されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○「この教科書の使い方」「保健体育の学習方法」が掲載されており、教科書の構成を理解し、保健体育の学習に主体的に取り組めるよう配慮されている。 ○「学習のまとめ」には、「日常生活に生かそう」「SDGs について考えよう」の QR コンテンツがあり、社会に生かす態度を養うことができるように配慮されている。
	資料	○生徒が見通しをもって学習に取り組める紙面構成となっている。 ○動画や思考ツール、ワークシートなど、さまざまな学びを深める QR コンテンツが掲載されている。
	表記表現	○読みやすさに優れたユニバーサルデザイン（UD）フォントを使用している。 ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の学習の流れに沿った構成で、学習の見通しをもちやすい。
総括		○学びが見える紙面構成となっており、見通しを持ちやすい。また学びが広がる様々な QR コンテンツがあり、教科書で学んだ知識をより深め、事前事後学習にも生かすことができる。

第25 採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（保健体育）

項目	中学校保健体育（４・大日本）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○基礎的・基本的な知識の習得のために「学習のねらい」で目標を明確にし、資料やイラストを使って、学習活動を進めるようになっている。 ○思考力・判断力・表現力等を育成するために、「話し合ってみよう」や「活用して深めよう」において具体的な課題を示すことで、実践力の育成を図るようになっている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○本文が左側、参考資料が右側にまとめられており、生徒が授業前後に自主学習を行いやすくなっている。 ○各単元において重要なキーワードが掲載されており、知識の定着を図ることができる。 ○WEBテストで個別に知識の定着を図れるような工夫をされている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○各単元にて「つかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」などの課題解決学習に取り組める仕組みがなされている。 ○「学びを生かそう」では学んだ知識をより生活に当てはめ、考えるなど、思考力、判断力、表現力を深めることのできる内容となっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○導入の「つかもう」では、身近な題材や実生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育もうとしている。 ○イラストでは、生徒が保健体育を学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に学習に取り組む態度が養われるようにしている。
	資料 ○見開きの右側が資料となっており、本文を裏付け、知識を深めることができる。 ○「中学校保健体育 WEB プラス」により、読み物や個別に学習できる小テストが豊富にある。
	表記表現 ○「学習のねらい」「つかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」という流れで構成されている。 ○各章単元の最後に、キーワードが示されている。 ○ウェブサイトにある動画や資料にアクセスして学習ができる。
総括	○全体的にレイアウトが統一されており、右側の資料やイラストでより考えを深めることができる。また「中学校保健体育 WEB プラス」の導入により、個別での学習やシミュレーション、さまざまな資料へ学習の幅を広げることができる。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（保健体育）

項目	最新 中学校保健体育 (50・大修館)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各章・各学習項目をつかむ（章とびら、きょうの学習、課題をつかむ）、身につける・考える（本文、資料、コラム）、まとめる・振り返るの3ステップにし、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する流れとなっている。 ○各学習項目の最後の「学習のまとめ」では、多様な表現活動を提示し、言語活動やグループなどで対話する場面を多く設けて、対話的・協働的に学ぶことができるように工夫している。
特色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得〉 ○「きょうの学習」を通して重要なキーワードを提示し、学習内容につながる気づきや思考を促す問いかけをすることで、知識・技能の確実な習得を図ることができる。 ○章末の「章のまとめ」では、3観点に分けて問題を用意し、重要点を確認している問題を多く出題している。 〈思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫〉 ○QRコードを活用した、デジタル教材が充実しており、取り組むことで深くその題材に対して学習することができる。 ○学んだ知識を実生活に生かして考える、「保健の窓」や「体育の窓」を設けている。また、生活に関連した情報を「コラム」として掲載するなど情報が豊富に載せられている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫〉 ○「章のまとめ」にある「主体的に学習に取り組む態度」の問題では、自己評価をすることができ、自らを振り返りながら学びへの意欲を喚起することができる。 ○中学生が興味・関心のある運動・スポーツの話題を取り上げることで、より学びたくなるような構成となっている。 ○写真や図が効果的に配置されており、興味を引くようなレイアウトになっているため、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。
	資料 ○日常生活から国際社会まで、保健体育に関わる出来事を切り取り、ビジュアルな紙面となっている。実社会で活躍する人たちのエピソードが多数紹介されている。 ○特集資料のページには、保健体育に関する様々な課題を取り上げ、正しい知識とともに対処法にも言及できるよう工夫されている。 ○「Web 保健体育情報館」では具体的な参考資料が多数掲載されている。
	表記表現 ○指導要領に示されている、学年配当を考慮し、内容の配列や分量を工夫している。 ○本文と資料が明確に区切られているので読みやすい。 ○関連するページとのつながりを記載しており、すでに学習した内容とのリンクがしやすいように工夫されている。
総括	○各ページにQRコードが記載されており、より深い内容に触れることができる。 ○図や資料などが豊富に掲載されていて、レイアウトが見やすい構成になっている。 ○学びをサポートする章のまとめが、わかりやすく分類されており取り組みやすい。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（保健体育）

項目	新・中学保健体育 (224・学研)
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各時間の冒頭に「ウォームアップ」を設け、興味・関心を高め、また学習課題を自ら発見できるようにし、主体的な学びにつながりやすい構成になっている。 ○教え合う、学び合う活動や、グループでの活動に適した課題には「協働」のマークを設け、協働的に活動する学習活動が生まれるように配慮した構成になっている。
特色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得〉 ○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」で構成され、「キーワード」を記載することで学習の見通しを持ちながら、その時間で習得した知識を活用する学習活動ができるように工夫されている。 ○各章の最後にある「章のまとめ」を通して、キーワードが振り返れるとともに、知識をより深めることができる。 ○QRコードから参照できる動画を生かし、知識を深めたり、技能の習得に役立てたりすることができる。 〈思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫〉 ○「エクササイズ」や「学びを生かす」を通して、仲間と話し合いをしながら思考力、判断力、表現力等の育成を図ることができる。 ○「章のまとめ」「生活への活用」では、習得した知識を自分の生活へ活用する記入欄が設けられている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫〉 ○項目の最後にある「とりくめーター」によって、主体的に取り組めたかを自己評価し、記録することができ、メタ認知に関わる力を育むことができるよう工夫されている。 ○各章の「章のまとめ」で、「生活への活用」を設け、もっと学習したいことを記述できるように工夫している。
	資料 ○各章末に「探求しようよ!」という補足資料や、「章のまとめ」、学年の終わりに「学年のまとめ」が設けられている。 ○学びを支えるデジタルコンテンツがあり、自ら進んで学習できるように工夫されている。中にはシミュレーション教材もあり自分自身の生活との関連についても深めることができる。
	表記表現 ○情報サプリアが各ページ下に記載されており、より深まる内容構成になっている。 ○本文内に補足説明や関連資料へのリンクを詳細に明記している。 ○「この章で学んだキーワード」にページ数も明記してあり、振り返れるように工夫がなされている。
総括	○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○各章末の「探求しようよ!」では、中学生に興味・関心の高い内容になっており、学びがより深められるよう工夫されている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 技術・家庭科（技術分野） ）

項目	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology （２・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標に則り、技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってより良い生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することができるように構成されている。 ○学習が系統的に進められるよう、各編が基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで学べる構成になっている。 ○多様な「問題解決例」を取り上げており、学校や学年の実情に応じた、実践的、体験的な学習活動ができるように工夫されている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図等を掲載し、科学的な根拠に基づく知識が習得できるように工夫されている。 ○問題解決をするために身に付ける必要がある技能は、副題材の実践例や「TECH Lab（テックラボ）」にまとめ、取り組む課題に応じて習得した技能を適切に選択できるように工夫されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○生徒自身の問題解決に導くために、「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示すとともに、ワークシートなどの記述例が掲載されている。 ○各編の最終章には、持続可能な社会の構築に向けて、生徒が、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりするためのワークシートが掲載されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○ガイダンスに「技術のめがね」「最適化の窓」を設け、主体的に身の回りの技術を見つめ、技術の工夫や技術による最適化について考えることができる。 ○身近な技術や製品の工夫についての読み物「技術の工夫」が掲載されている。
	資料 ○本文・イラスト・写真・図表等の配分は適切で、関連をもたせた構成になっている。 ○多くのページに QR コードが掲載されており、デジタルコンテンツが充実している。
	表記表現 ○UD フォントの使用や、色覚への配慮、基本ページでは書く項目を同じ位置に配置するなど、読みやすいように工夫されている。 ○本文が簡潔明瞭で、読みやすい表現になっている。
総括	技術の見方・考え方を働かせた深い学びの実現ができるような工夫が多くなされている。問題解決能力を高められるように、丁寧な説明があり、問題解決のプロセスに沿った構成になっている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 技術・家庭科（技術分野） ）

項目	明日を創造する （6・教図）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標に対応した系統的な配列になっており、技術分野の見方・考え方を働かせて問題解決能力が身につく構成になっている。 ○各内容の分量は字数、学期、学年配分などに配慮し、偏りなく扱えるように構成されている。 ○技術について調べたり、考えたりする活動があるページがあり、主体的で対話的な学びができるように配慮されている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「見つける・学ぶ・ふり返る」が基本配列となっており、「見つける」で学習意欲を喚起、「学ぶ」で自主的に学習、「ふり返る」で学習理解の確認ができるようになっている。 ○基礎技能が学べる易しい題材や、1つ1つの作業工程を丁寧に示した題材例が掲載されてる、技能をまとめた別冊「スキルアシスト」がある等、確かな技能を身に付けることができるようになっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○技術による問題解決の流れが丁寧に説明されており、生徒が自らの問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。 ○各編の最終章にある「社会の発展と技術」では、社会における技術のプラス面とマイナス面の資料が掲載しており、生徒が自ら考え判断できるようにしている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○各編に「やってみよう」という、自ら学ぶ、グループで学ぶための問いかけが設けられている。 ○持続可能な社会と関連させた資料が掲載されており、社会の問題を自らの問題として主体的に取り組めるようになっている。
	資料 ○学習内容の精選と重点化がなされており、本文の理解を助けるために必要な写真・イラスト・図表などが適切な箇所に配分されている。 ○多くのページに QR コードがあり、デジタルコンテンツが活用できる。
	表記表現 ○UD フォントの使用や、色覚に関する配慮がなされている。紙面の構成が統一されており読みやすくなっている。 ○本文の字体と図版のキャプションの字体が異なっており、見やすくなっている。
総括	問題解決の手順が丁寧に示されている、幅広い題材例が紹介されている等、生徒が社会の問題を自らの考え、解決に取り組む力を育成する工夫がなされている。別冊「スキルアシスト」は技能がまとまっており、技能を身に付けることができる。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 技術・家庭科（技術分野） ）

項目		テクノロジーに希望をのせて（９・開隆堂）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○各章・節の内容は学習指導要領の内容を踏まえ、基礎・基本の習得から応用・発展的な学習へと展開されており、系統的に学習が進められるようになっている。 ○実践的・体験的な学習活動を取り入れ、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、課題解決を図る力を身に付けられるよう工夫されている。 ○各学習項目で、学習課題を設けて問題意識をもたせ、CHECK で振り返ることで、自ら解決しようとする能力を養えるような構成になっている。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○各ページが「学習の目標・学習課題」→「学習内容（本文）」→「CHECK」の構成となっており、学習の流れが分かりやすく、知識・技能の習得がしやすいよう工夫されている。 ○実践的・体験的な学習活動を通して、課題を設定して解決を図る力を身につけることができるように工夫されている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○問題解決の手順が明記されており、自ら問題を見出し、課題を設定して解決する力を身に付けられるようになっている。 ○学習の節目で、見方・考え方を働かせるワークシートがあり、自分の身の回りのことや制作について考えることができる <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○身近なものを取り上げることで、社会における技術に気づき、社会や環境と技術とのかかわりについて、理解を深められるようになっている。 ○豆知識の欄があり、さらに自ら学ぶことができる構成になっている。
	資料	○写真、図、イラスト等を適切に使い、理解しやすく、また理解が深まるような構成になっている。 ○多くのページに QR マークがあり、デジタルコンテンツが充実している。
	表記表現	○UD フォントの使用や、色覚特性への配慮、単語の途中で改行しない等の配慮がされており、誰もが読みやすいように工夫されている。 ○基礎的・基本的な事項が習得できるよう、理解しやすい表現になっている。
総括		身近な事柄を取り上げており、実践的・体験的な学習活動を通して、課題解決を図る力が身につくように工夫されている。学習の流れが示されており、見通しをもって学習活動に取り組めるようになっている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名 技術・家庭（家庭分野）

項目	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（2・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○生活の自立に必要な基礎的な理解・技能 各題材の目標や課題が明記され、見やすい写真や資料、分かりやすい手順が掲載されている。身に付ける基礎的・基本的知識と技能が生徒にも分かりやすい。 ○これからの生活を展望して課題を解決する力 各編の扉で問題発見、課題設定のヒントを掲載し、課題設定ができるよう工夫されている。「生活に生かそう」は、学びを生活に返していくような構成である。 ○生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 学習の進め方や具体的な実践例、イラストや写真で分かりやすく表現され、どの生徒も生活で実践しやすくなっている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○各節「目標」「レッツスタート」「学習課題」「本文・図版」「まとめの活動」の6つで構成され、毎時間の学習が明確で知識と技能が習得しやすい。 ○「いつも確かめよう」に実習や生活での実践に必要な必ず身に付けたい基礎的スキルがまとめて掲載され、いつでも確認し「できた」という確実な定着を図れる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○「ガイダンス」「学習のまとめ」では、直接記入できる箇所がより分かりやすくなり、自分ができることや課題を明確にすることができるようになっている。 ○デジタルコンテンツの思考ツールを用いて学習できるようになっており、思考力・判断力を育成することができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○豊富な写真やイラスト・漫画を用いて、多様な実践例で「やってみたい」という意欲を促し、学びを広げ生活を豊かにしていく工夫がされている。 ○学習したことを生活の中で生かすやすく、課題も見つけやすい。特に調理では実習例が豊富であり、学習したことを家庭で生かす際の参考にできるものである。
	資料 ○図や表・資料が授業で扱いやすいものになっており、生徒が生活の中で触れることが多いものや、イメージしやすいものが使用されている。 ○ページ右上に豊富なQRコードコンテンツがあり、紙面には「Dマーク」として表示され、すぐにアクセスして学習が進められるようになっている。
	表記表現 ○本文、見出し、吹き出しなどにユニバーサルフォント、資料にカラーユニバーサルデザインが採用されており、誰もが見やすいように工夫されている。 ○調理や製作における手順が詳細に示されており、わかりやすい。また、製作の失敗例を参考にして、正しい方法で作品を仕上げるができるようになっている。
総括	各題材の「問題発見」「課題設定のヒント」で、課題設定ができるようになっており、生徒が見通しをもって学習を進めることができる構成になっている。豊富な資料やQRコードコンテンツで多様な学び方で授業を進めることができる。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名 技術・家庭（家庭分野）

項目		新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する（6・教図）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○生活の自立に必要な基礎的な理解・技能 どの題材でも、主体的・対話的な学びや実践的・体験的な活動を通して、知識や技能が身に付けられるように工夫されている。 ○これからの生活を展望して課題を解決する力 課題解決の進め方が明確であり、課題への取り組み方例も紹介されており、これからの生活を展望して解決する力を養うことができる。 ○生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 「センパイに聞こう！」では、人生の先輩のメッセージを読んで自分の将来を想像し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う工夫がされてる。
特色	内容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「見つめる」「見つめてみよう」「学ぶ」「ふり返る」の4ステップで、学習の流れが明確である。「ふり返る」で知識・技能の定着を評価できるようになっている。 ○「めあて」「キーワード」が示され、学習内容や青文字で表記された重要語句が明確で、基礎的・基本的な知識の習得につながっている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○調理実習や布を用いた製作では、基本的な内容に「私のアレンジ」を加えて自分の課題を設定し、思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。 ○「学びを生かそう」では「やってみよう」で身に付けた知識・技能を生かし工夫して課題に取り組めるように、問題解決学習の流れを6ステップで説明している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「自立度チェック」で自分の状況を確認してから学習を進められる。「私の学び」では、身に付けたことや感じたことを自分の言葉にして自己の変容も確認できる。 ○吹き出しには、生徒、大人のそれぞれの立場からの意見やアドバイスが掲載され、様々な考えがあることや知識の幅を広げられるようになっている。
	資料	○「自立度チェック」「私の学び」「学びを生かそう」「学習のふり返り」など教科書に直接書き込めたり、巻末のシールを直接貼れたりする工夫がされている。 ○QRコードを活用しての動画やワーク、レポートなど視覚的資料が豊富である。また、献立バランス計算ソフトが利用でき、効率よく学習を進められる。
	表記表現	○各QRコードの横に、どんな内容を調べることができるか表記されており、使用しやすい。他の情報サイトにもすぐつながるように工夫されている。 ○文字の大きさや重要な語句の色（青）、表や資料が見やすいように色使いが工夫されている。
総括		家庭生活における「つながり」をキーワードにし、生徒が自分の生活と関連付けて学習を進められる構成である。生徒が資料やQRコードを自分の課題に合わせて使用でき、主体的に学べるようになっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名 技術・家庭（家庭分野）

項目	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支えあう生活へ（9・開隆堂）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○生活の自立に必要な基礎的な理解・技能 生徒が意欲・関心をもって基礎的・基本的な知識や技能を習得し、実践的に取り組めるよう工夫されている。 ○これからの生活を展望して課題を解決する力 題材の始めに「自分の興味・関心を大切に」「学習内容」「小学校での学び」があり、見通しをもって学習できる。また、生活の課題と実践例が学習の参考になる。 ○生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 学習内容をイメージできるよう、「参考」「取り組み」「先輩からのエール」等の豊富な事例やイラストから具体的な問題を結び付けて考えられるようにしている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○調理実習 15 例・製作実習 8 例など多様な実習例を提示し、基礎的・基本的な知識や技能がわかりやすくまとめられている。 ○各ページ下の「豆知識」では、題材に必要な情報が掲載されており、学習を通してより知識の幅を広げることができるようになっている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○教科書全体で学習過程が共通しており、生活の課題と実践の進め方や課題に応じた多様な取り組みがわかりやすく示されている。 ○「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」「発表してみよう」の分類で、生活の具体的な出来事から考える課題が設定されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○学びのとびらを開き、自分ごととして考えられるように、具体的な課題や事例を示し、視覚的にわかりやすい構成になっている。 ○各題材で SDGs の視点から多様な人々を掲載し、他者理解から認め合い尊重し「共に支えあう生活」を目指すよう工夫されている。
	○ページ右上に QR コードが掲載されており、教科書の内容に関するコンテンツを参照することができる。また、他教科他分野との関わりもわかり便利である。 ○見開きのページで学習がまとまるように構成されている。また、振り返りでは、直接記入できる欄が広く、下線もあるため書きやすく工夫されている。
	○本文と強調したい内容とでフォントを変えており、インパクトがある。文字の色づかいやタイトルを白抜きにする工夫により見やすくなっている。 ○調理実習例の中で、アレルギーの原因となる食品が含まれていることが意識できるように黄色で強調され、一目でわかりやすくなっている。
総括	生徒の興味・関心を引き出し、家庭生活の中の課題を「自分ごと」として考えて学習できる構成となっている。図表などの視覚的な資料も豊富であり、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けられるよう工夫されている。

第 2 5 採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（英語）

項目	NEW HORIZON（2・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○4技能5領域がバランスよく配置され、実際のコミュニケーションを想定し、目的・場面・状況に応じて英語で意思や情報を伝え合う対話的な活動を通し、実践的な技能を身につけられるようになっている。 ○様々な国の文化や国際社会、今日的话题や生徒の知的好奇心を喚起する多様な題材などを扱い、自ら考え、それについてコミュニケーションを図る活動が工夫されている。
特色	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○1年生の夏休みまでを「小中接続期」とし、Unit4までの学習を通して小学校の既習事項を学びなおせる構成になっている。 ○各PartのPractice①②③で、本文の内容と繋がった練習問題や新出の文法を活用した言語活動を行い、知識の定着を図ることができる。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○Unitごとに「単元を貫く問い（GOAL）」が明確にされており、Read and ThinkのRound3の表現活動で、「単元を貫く問い」について自分の意見をまとめ、相手意識をもって伝えられるよう構成されている。 ○Unit, Real Life English, Stage activityの3つの主要単元により、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力などを身に付けさせることができる。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○SDGsや他教科関連など様々な題材を取り扱い、それらを通して自分の考えをまとめ、深めることができるようになっている。ペアやグループでの発表など、協働的な活動が取り入れられ、主体的に活動できるよう工夫されている。 <聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○Unit後半のRead and Think1,2にある「Round1~3」の設問に取り組むことで、3回視点を変えて絞って英文を読み、読解力の育成が図れる工夫がされている。 ○Stage Activityでは、それまでのUnitごとの学習を更に発展させ、話し合い活動を入れて、自分の考えを深める内容になっている。
	資料 ○巻末に「基本的な発音の仕方」の表が掲載されており、文字と発音記号が併記され、発音の仕方について学ぶことができる。また、動画を見て発音時の口の動きを確認することもできる。 ○巻末に帯活動資料として、Small Talkがあり、英語を即興で伝え合える練習ができる。 ○QRコンテンツが豊富であり、生徒が個別最適かつ協働的な学びができるよう工夫されている。
	表記表現 ○1年生で各単語にストレス（▼）付記、2,3年生で発音記号が青色で併記されている。 ○カラーユニバーサルデザインの採用の他、1年生では本文のほぼすべての英語が手書き文字風のフォントで記載されている。
総括	○小学校からの接続のため既習の単語や表現が分かるようになっている。また、構成も小中連携を意識したつくりになっている。 ○言語習得理論が意識され、「聞く」活動から始まり、「読む」「話す」「書く」活動へとつながっている。 ○生徒の好奇心を引き出す魅力的な教材が揃えられており、生徒が自ら学びたいと思える教科書となっている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（英語）

項目		Sunshine English Course（9・開隆堂）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○全学年を通して 1 単元の中に「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動が配置されており、4 技能 5 領域の総合的な指導ができるよう工夫されている。 ○「知識・技能」を習得する「Scenes」、思考力・判断力・表現力を鍛える「Think」「Retell」「Interact」を通じて学びに向かう力・人間性が寛容できるように工夫されている。
特色	内容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「Scenes」では、漫画形式で新出単語や「Today's Expression」が導入され、親しみやすく楽しく学べる形式となっている。理解を深める活動では生徒の大半が達成できるよう比較的簡単な難易度に収められている。 ○各単元の脚注の「Small Talk」では既習表現を使う活動が設定されており、授業の帯活動として生徒が繰り返し英語を使いながら定着を図る構成となっている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○各単元の「Review & Retell」では、自分の言葉で内容を整理して話す活動が丁寧に段階分けして設定されている。 ○単元末の「Action」で新出表現を使用して本文題材に関連したテーマの自己表現活動が設定され、基礎固めから応用のレベルに着実に力をつけていける構成になっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○単元の「とびら」のページに「こんな表現ができる！」として、何ができるようになるかが明確に描かれており、学習のモチベーションにつながる。 「Tuning in」では、題材に関する大きな写真や簡単なクイズ、Information の掲載があり、学習者の興味関心を高め、本文を読みたくさせる工夫がある。 ○3 年間で 8 つの「Our Project」が学年にあったレベルで配置され、4 段階のステップを踏みながら取り組める。最終目標が明確に設定されているため、指導計画が立てやすい。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○「Speak & Write」「Reading」では話したり読んだりした内容について自分の感想や意見を書くことで新出表現を使いながら理解できるように工夫されている。 ○「Our Project」や「Action」などの表現活動では、目的や場面、状況の設定の工夫や相手意識・目的意識を持たせる工夫がされており、実践的な活動になっている。
		資料
	表記表現	○1 年前半は手書き文字に近いフォント、1 年後半はゴシック体、2 年生からは活字体と、発達段階に合わせたフォントが使用されている。 ○発音記号については、巻末資料「単語と熟語」にまとめて示すことでより見やすいレイアウトになっているとともに、学習者の負担軽減となっている。
	総括	

第25採択地区教科用図書採択協議会

教科名（英語）

項目		NEW CROWN English Series（15・三省堂）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○各単元に配置された言語活動を通して、学習した内容を活用し、目的や場面、状況などに応じて、思考力・判断力・表現力を働かせながら深い学びを実現できるよう工夫されている。 ○異なる文化的背景を持つ人物をメインキャラクターとして設定し、それぞれの生活や考え方に触れることを通じて、互いを尊重し合うことと、多様な価値観を受け入れることの大切さを理解できるよう配慮されている。	
特色	内容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○各 Lesson で Small Talk が設けられており、知識と技能の習得を目指す活動が組み込まれている。基礎的基本的な知識と技能を確実に身に付ける工夫がなされている。 ○Scene 1 で日常的な場面が設定され、シンプルな言語材料が視覚的にわかるよう整理されて掲載されている。Scene2 では、Scene 1 で得た知識・技能を生かし、さらに学習を深め、既習事項と新出事項をスパイラルに学習することができるように構成されている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○About Me や Think about yourself!にて、その Lesson にて学んだ語句と場面設定を活用し、自分自身のことについて表現する活動が設定されている。 ○「Project」「Take Action」等コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた活動が設定されている。提示された多様な題材と言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う構成となっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○学校、家庭、地域での生活から、正義、平和、自然科学、環境、日本や外国の伝統文化など、題材が多岐にわたり、生徒の人間性を涵養する上で参考となる題材が取り揃えられている。 ○生徒の知的好奇心や発達段階に合わせて、読み物教材（文学や説明文）が学期に1つずつ配置され、本文とは違う視点で「読むこと」の活動の充実が図られている。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○各 Lesson のそれぞれの Part では4技能5領域にわたる言語活動がバランスよく配置されているほか、中核となる技能を系統的に養う独立した単元も配置されている。	
		資料	○「For Self-study」では、効果的な学びについての情報を提供している。 ○巻末には生徒の表現を支える「いろいろな単語」「Tips for Small Talk」や、学びを振り返る「What Can I Do?」など、多様な資料がある。 ○QRコードを読み込んで活用するデジタルコンテンツが充実している。生徒は個別に音声の聞き取りや発音のチェック、意味の確認などを行える。
		表記表現	○文字のフォントや色遣いに、ユニバーサルデザインが取り入れられており、生徒のさまざまな特性に配慮されている。 ○A4の大判の教科書で、イラストや写真が大きくて見やすい。
総括		○目標の設定、活動への取り組み、振り返りというサイクルの中で、生徒が主体的に学びに関わり、学習を自己調整する力を養うための工夫がされている。 ○学年を通して一貫した流れで指導できるように構成されており、目標や指導のプロセスが明確に示されている。教員の経験に関わらず指導しやすいと考えられる。 ○小中、中高連携を意識して作られており、1年生の教科書では小学校からの円滑な接続が図られている。	

研究調査報告書

教科名（ 英語 ）

項目	ONE WORLD English Course （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各 Lesson で「知識・技能」と「思考・判断・表現力」を育成し、Project にて5領域を総合的に活用する学習が行われる構成となっている。Can-Do 自己チェックリストに設定された目標を計画的に達成できるようになっている。 ○「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の総合的な育成を図るため、対話と協働によって問題解決にあたる様々な活動が盛り込まれている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「Key Sentence」では、重要な文構造や文法事項の典型例がシンプルな例文で提示され、「Tool Kit」で使用場面を意識した語句の入れ替え練習により、基本文の定着を図ることができる。 ○各 Lesson 後の「Grammar」では、改めて重要な文構造がまとめられており、スパイラル的に学習することができる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○「Think&Try」では本文の一部を利用しながら、自分で考えを加えて話したり、書いたりする活動が行えるようになっている。 ○「Task」では、教科書の本文と異なる場面設定で、学習した文法事項を活用して自分の考えを発表・共有する活動ができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○「Project」では4技能5領域の「知識・技能」を統合的に活用する活動が多く取り入れられている。他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や自分の考えを表現する活動、SDGs などに関連する題材内容が扱われている。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○5領域に関わる様々な「Tips」や「Useful Expressions」等が配置されており、統合的な活動を行う Project と併せて、5領域の力をバランスよく伸ばし、基礎から実践的な活動まで行うことができるよう構成されている。 ○3年生ではディベートの進め方について、教科書の本文で取り扱われており、基本的な進め方を学ぶことができる。Project3 では異なるトピックを用いてより実践的なディベートに取り組み、コミュニケーションの形態の一つとして、他人の意見に耳を傾け、自分の意見を発信する力を身に付ける機会となっている。
	資料 ○巻末の「自己チェックリスト」に3年間の学習到達目標が掲載されており、自身の学習の見通しを持ったり見直したりすることができる。 ○学年に応じ、語形変化や重要構文復習リスト等がシンプルにまとめられており、まとめて復習する際に効果的である。
	表記表現 ○1年生の半ばまで、手書き文字に近く判読しやすいフォントで記入されている。 ○色覚特性による影響が生じないように配慮されており、すべての学習者にとって見やすくわかりやすい配色が施されている。
総括	○新出文法事項は3年の Lesson5 までに終了する構成であり、年度の後半は学習事項の定着を図るのに十分な時間を確保できる。 ○Lesson にて場面設定された言語材料を学び、Tips、Useful Expressions で考え方を補填し、Project で総合的・統合的な活動を行うという構成になっている。ここでは教科横断的な学習や課題解決学習の観点と結びつけることにより、生徒の学力・人間性等を涵養できるような工夫がされている。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（英語科）

項目	Here We Go！ ENGLISH COURSE （３８・光村）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○Unit の Part ごとに学習すべき言語材料を提示して４技能で活用できるようになっており、５領域のバランスや活動の一貫性が考慮されている。 ○様々な題材を通し、外国語の背景にある文化に対する理解を深めるとともに、相手を尊重してコミュニケーションを図ろうとする態度を養うよう工夫されている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○小中の接続を円滑に行うため、１年巻頭から Unit3 までのすべての基本文が小学校既習の表現である。 ○各 Unit の学習で基礎的な知識・技能を着実に習得できるように構成されている。習得に当たってはそれに応じた言語活動を伴うよう、工夫されている。 ○ICT 機器を使用して QR コードを読み取ることで、音声のスピードを調節できるなど、個に応じた学習が可能となる。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○SDGs をはじめ、実社会に即した題材を多く取り上げ、多様な見方・考え方を育む構成となっている。 ○Unit の Goal や You Can Do It！で理解したことを表現に繋げる言語活動が工夫されており、言語活動の際の目的・場面・状況が設定されている。 ○登場人物になりきってセリフの続きを考える You're the Writer!で、ストーリーをもとに思考力・判断力・表現力を働かせる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫＞ ○領域別の学び方や活動への取り組み方、家庭での学び方などを紹介した英語の学び方ガイド、領域別の到達目標や目標に到達するまでの成長イメージを可視化した CAN-DO List で自主的・自律的な学習に資するよう工夫されている。 ○巻頭の「ICT を活用しよう」で英語の学習に効果的な ICT 機器の活用方法を個別学習・共同学習の場面別に紹介し、GIGA スクール時代の英語学習を後押ししている。 ＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞ ○左側の本文で「聞く」「読む」、右側の言語活動のページで「聞く」「話す」「書く」活動を基本とし、さらに Unit ごとの Goal や学期ごとの You Can Do It！でスパイラル的に学習し、定着を図る構成となっている。
	資料 ○巻末には Active Words でカテゴリー別の英語表現が掲載されているほか、基本動詞のイメージや文の仕組み、語形変化などがまとめられている。 ○巻末には「即興力」を高める教材「Let's Talk」が付属しており、場面に応じて会話をする力がつけられるようになっている。
	表記表現 ○１年生初期は独自の手書き体を使用し、発達段階や場面に応じた字体が使用されているほか、カラー等においてもユニバーサルデザインのものが使用されており、生徒のさまざまな特性にも配慮されている。中学校配当漢字にはすべてフリガナ表記してある。 ○２・３年では、発音記号が新出単語に併記されている。
総括	○４人の中学生の学校生活を中心とした３年間一続きのストーリー構成で、本文の展開や登場人物の成長は、学習者にとって共感できるものであり、学ぶ意欲を高める。 ○多様性、人権、情報、防災安全、SDGs、ユニバーサルデザイン、個別最適な学びの７つの視点に基づき、教科横断的な学びができる構成となっている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（英語）

項目		BLUE SKY English Course（6 1・啓林館）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○読んだり、聞いたりした内容について、話したり（やり取り・発表）、書いたりする活動につなげ、4技能5領域を統合的に活用した言語活動が工夫されている。 ○活動の目的・場面・状況を明示し、様々な話題を題材にすることで生徒が興味関心をもって学習意欲を高め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫がある。
特色	内容	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○各 Unit は「Scene」で目的・場面・状況を確認し、本文(「Part」)では、「聞く」「読む」活動を通して新出文法の使用場面を意識させている。「Target」で新出文構造・文法の解説があり、その後、「聞く」「話す」「書く」の順で練習し、知識・技能を習得させる構成となっている。 ○「Focus on Form」で、系統的に整理した詳しい文構造・文法説明が掲載され、知識の定着が図られている。 <思考力・判断力・表現力等の育成> ○「Unit」の各「Part」に設けられた「Express Yourself」では、「Unit」で扱われた新出の文構造・文法を使って短い自己表現活動を行い、各学期に1度設定されている「Project」では、より統合的に思考力、判断力、表現力を育成できる構成になっている。 ○Unit Goal の内容に応じ、単元ごとに聞いたり読んだりして得た情報を自分なりに整理したり、整理した情報を自分なりに話したり書いたりする活動が盛り込まれ、思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための効果的な工夫> ○各 Unit の扉のページに Unit Goal として、「Input」と「Output」の2本柱で目標が設定され、学習の見通しを立てることができる。 ○日常的な話題から社会的な話題まで、多様な題材を扱っている。また、「Small Talk」のテーマとして「Enjoy Chatting」が用意され、英語を学ぶとともに、協働的な学びをとおして新しい知識や情報を得られるよう深い学びに貢献している。 <聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○Let's Listen や Let's Talk などの「Let's シリーズ」は聞く、読む、話す、書くそれぞれの技能に特化した活動で、「Project」は4技能5領域を統合し、実際のコミュニケーションで活用できる構成となっている。 ○「Listen & Think」「Think & Speak」など、技能の習得のみならず、深い学びに繋げる工夫がなされている。
	資料	○QR コンテンツが充実し、個別最適な学び、協働的な学びが実現できるようになっている。自分たちの力で学習に取り組みやすく、自律的学習者の育成に寄与できる。 ○巻末の「Word Box」はカテゴリー別に単語が収められており、話すこと、書くことの言語活動の際に参考にすることができる。 ○巻末の「Can-Do リスト」は1年生から3年生まで共通しており、「中学校卒業までに達成できるようになること」が記載されている。
	表記表現	○1年生では手書き文字に近いフォントで記載されており、新出単語にはストレス(▼)が付記されている。2年生からは活字体で記載され、新出単語に発音記号が付記される。 ○余白部分や行間スペースが整理され、配色が落ち着いていることにより、生徒が落ち着いて扱える教科書になっている。
総括		○小学校英語で学んできたことが中学校でもスムーズに接続できるよう、活動や言語材料の配列、目標設定などの工夫がされている。 ○ページ上部に目標が明示されており、学習の見通しが立てやすい。また、単元末の活動後に目標に基づいた自己評価ができるようになっており、自律学習へとつなげやすい。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（道徳科）

項目		新編 新しい道徳 （２・東書）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「ソーシャルスキルコラム」、「哲学対話」、「役割演技」、「生徒が親しみやすい人物や題材」の４種類のコラム「Plus」で学習した内容を深化・拡充させる工夫がされている。 ○教材末に「ぐっと深める」を設け、「考えよう」、「自分を見つめよう」の発問をさらに深く考え、道徳的価値について、自分の生活に生かせるよう工夫されている。 ○巻末の「自分の学びを振り返ろう」では学期末に学習を振り返り、成長を実感できるように工夫されている。
特色	内容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○いじめ、生命尊重に関わる教材をユニット化して集中的・継続的に学習できるよう工夫されている。生命尊重では、「防災道徳」を全学年に配置している。 ○全学年に情報モラル、SDG s、多様性に関する教材が取り上げられている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○読み物教材に加え、写真や挿絵、ポスターなどから考える教材や、漫画を活用した教材、グラフから考える教材など、多様な教材を配置し掲示方法が工夫されている。 ○学年間連携教材が配置され、発達とともに起こりうる変容に気がつく工夫がされている。 <考え、議論する道徳>を通して道徳性を育成する工夫 ○全学年に、役割演技などの手立てを示す「道徳科とは」を掲載し、話し合いや体験的学習に生かせるよう工夫されている。教材に即して役割演技を行うコラムが配置されている。 ○生徒が自由に考えを書き込めるメモ欄「つぶやき」や心情円が付録されており、話し合いに活用できるよう工夫されている。
	資料	○QRコードにより、速度調節機能の付いた朗読音声、教材に関する映像、デジタル心情図を活用できるよう工夫されている。 ○４つの補助教材「Plus」、「一年間で学ぶこと」、「道徳科とは」、話し合いや評価にも活用できる「つぶやき」、学期ごとの振り返りのページが付録されている。 ○あらすじや登場人物の解説、教材に関連した漫画が付されている教材があり、内容理解の手助けになるよう工夫されている。
	表記表現	○目次と教材冒頭に４つの視点が４色のマークで示されており、ねらいとなるテーマが示されている。 ○索引は４つの視点と内容項目ごとに分類して示されている。 ○ユニバーサルデザインフォントを採択し誤認しにくい工夫がされている。
総括		○心情円や「つぶやき」など話し合い活動に活用できる工夫が充実し、考えを可視化できるよう工夫されている。 ○「いじめのない世界へ」のようなユニット式の教材や活動型の教材を採り入れ、学年の発達段階に合わせて、系統的に学習できるよう教材が配置されている。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（道徳科）

項目	中学道徳 とびだそう未来へ （17・教出）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各教材の冒頭に問いが設定され、授業で扱うべき道徳的価値を生徒全員が共有し、学習の見通しをもちやすいよう工夫されている。 ○各教材の最後に「学びの道しるべ」が設けられており、3つの問いを通して段階的に道徳的価値の理解を深め、道徳的な判断力、心情を育てることができるよう工夫されている。 ○巻末に振り返りシートが掲載されており、生徒が自分の成長や変容を実感することで道徳的実践意欲を高められるよう工夫されている。
特色	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○全学年に「いじめをなくそう」ユニットが設定されており、いじめや差別について多種多様な教材から考えることができるようになっている。 ○SDGs について理解と実践意欲を高めることができる教材を多数掲載されており、17の目標との対応についてわかりやすく示されている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○内容項目「友情、信頼」について、一つの物語が学年ごとの3部構成で設定されており、生徒が発達段階に応じて登場人物に共感しながら深く考えられるようになっている。 ○1年では小学校での経験も想起しながら考える教材、2年では小学校で学習した内容についてさらに深く考える教材、3年では高等学校の「公共」につながる教材を設定し、学びの連続性を確保している。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○巻頭のオリエンテーションページで、話し合いのポイントや学習方法が例示されており、生徒が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ○適宜記入欄やキャラクターによる発言例などにより、自分の考えをまとめ、それをもとに話し合う活動を充実させるための工夫がされている。
	資料 ○二次元コード「まなびリンク」を活用することで、学習者用端末を使って教材と関連する情報が見られるようになっている。 ○写真、絵本、マンガなど、内容理解がしやすい多様な教材が用意されており、読むことよりも考えることに十分時間がとれるよう工夫されている。
	表記表現 ○視認性・可読性が高いユニバーサルデザインフォントが使用されており、読みやすさに配慮されている。 ○中学校で学習する常用漢字については初出箇所、固有名詞については全てに、それぞれ振り仮名が付けられている。
総括	○各教材に設定されている導入の問いから、学びの道しるべによって授業の流れが確立されている。また、巻頭に掲載されている「話し合いのポイント」によって生徒の活発な話し合いが期待できる。「主体的・対話的で深い学び」を実現している教科書と言える。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（ 道徳科 ）

項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき （３８・光村）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○主体的な学び手を育てるため、１年間の初めに道徳科は何を学ぶ教科なのかを自覚し、自分なりの目標がもてる工夫がされている。 ○学年の最初に問いをもつ大切さを意識させ、自分の中に芽生えた疑問を問いの形にできるような場が設けられている。 ○人権に対する知識と考え方を学び、生徒一人一人の感性を高められるよう、人権のユニットが設けられている。
特色	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○教材と教材のつながりや、道徳の学びと生徒の生活のつながりを意識し、授業で考えたことが生徒のよりよい生き方に結びつくよう工夫がされている。 ○教材以外にも、考えたことを活動を通してさらに深める「まなびをプラス」や自ら立てた問いに取り組む「チャレンジ 問いを立てよう」、環境や人権などの持続可能な開発目標（SDGs）につながる「コラム」が充実している。 ＜発達段階に則しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○各教材の最後には、１年間の学びの流れが見通せるてびきとして、テーマに対する振り返りを行う「考えよう（学びのテーマ）」、多面的・多角的な見方や考え方を促す「見方を変えて」、教材の特質に合わせて、他教科や日常生活につなげ、さらに考えを深めさせる「つなげよう」が記載されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○日常生活にありがちな、道徳的な判断が求められる場面を取り上げ、対話を通して問題を解決しようとする教材が多数用意されている。 ○体や手を動かして考える学習活動が例示され、役割演技等を具体的に示している。また、巻末の「学びの道具箱」では、話し合いを活性化するための思考ツールを紹介している。
	資料 ○各教材には二次元コードが記載され、朗読・資料・動画など生徒の学習意欲を高めるデジタルコンテンツを活用することができる。 ○各教材には形や色で判別できる視点マークや、学びのキーワードを確認するための内容項目のタグ表示、読みの負担軽減のためのルビなどの配慮がある。
	表記表現 ○色覚特性や特別支援教育の専門家による校閲を受け、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインとなっている。 ○てびきの問いは、意味のまとまりで改行することで、生徒が問われていることの意味をつかみやすくする工夫がされている。
総括	○最終教材「一年間の学びを振り返ろう」では、第１教材で初めに立てた目標を振り返り、１年間を通しての自分の心の成長を知ることのできる教科書である。 ○さまざまなニーズに対応するデジタル教科書も準備されており、一人一人の生徒の特性に合わせた個別最適な学びを実現できる教科書である。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

項目		中学道徳 あすを生きる （1 1 6・日文）
中学校学習指導要領の教科目標との関わり		○問題解決的な学習、体験的な学習に適した教材をマークで示し、教材末に「学びを深めよう」、「学びを深めるヒント」を提示している。 ○「道徳ノート」との併用で、多面的・多角的な考えを促し、コラム「視野を広げて」「あすへのメッセージ」を教材末に配置し、関連情報を示している。 ○教材末の「自分にプラスワン」で学びを生かす問いかけ、「道徳ノート」には3項目4段階の評価があり、心の成長を実感できる構成になっている。
特 色	内 容	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ」問題をユニット化し、いじめの事例を直接的に扱った教材と間接的に考える教材の両方で構成され、知識を深めるものとスキルを身につけるものがある。 ○多様性を尊重し合う社会のために大切にしたい内容項目として、「向上心、個性の伸長」「相互理解、寛容」を重点化し、配置教材数が増えている。 ○「自立と共生」、「環境と未来」の2つのテーマに絞って、関連する教材・コラムをユニット化し、集中的かつ多面的多角的に考えられるよう教材が配置されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○学校の年間行事や発達段階を踏まえて、教材・コラムが配列され、授業の内容を自分ごととして捉える教材配置がされている。 ○系統的・発展的な学習ができるよう1年生で「であう」、2年生で「みつめる」、3年生で「ひらく」の大きなテーマが設定されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○道徳ノートは、発問欄が自由に設定でき、自分にプラスワン欄で自分の考えをまとめて書くなど、協働的な学びの中で考え多様な議論ができるよう工夫されている。 ○教材末に「考えてみよう」「自分にプラスワン」を設定し、ねらいに迫るための問い、実践化を促す問いが示されている。
	資 料	○道徳ノートの発問欄が授業に合わせて活用できる。「自分に+1」欄に自分の考えがまとめ、学期ごとの振り返りページで成長を実感できるように工夫されている。 ○全教材・全コラムにQRコンテンツが付属している。一部の教材には、人物の略称、人物関係図、動画、外部リンク、画像内容理解などの関連情報もある。 ○教材の前後のコラムで、補充的・発展的な学習ができるよう配置されている。
	表 記 表 現	○教材の題名とともに4色の視点のマーク、主題名、登場人物のイラスト・写真、学びのキーワードが掲載されている。 ○中学で学習するすべての漢字に振り仮名がついている。難解な語句は脚注や側注でイラストや写真を交えて解説されている。行数が数字で示されている。 ○ユニバーサルデザインフォントを採択し誤認しにくい工夫がされている。
総 括		○現代的課題のうち、いじめ問題、自立と共生、環境と未来重点を置き、それらを複数の教材でユニット化して配置している。 ○関連情報やコラム、「学びを深めるヒント」が充実しており、視点を変えて話し合ったり 発展的に考えたりすることができる。

研究調査報告書

教科名（道徳科）

項目	新版 中学生の道徳 明日への扉 （２２４・学研）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○生徒と共に道徳授業の流れ「考えを深める４つのステップ」が巻頭にあり、主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫がされている。 ○「１ 人をつなぐ」「２ 課題をつなぐ」「３ 未来をつなぐ」の３項目を編修の特色とし、道徳的価値の意義及びその大切さの理解につながる工夫がされている。 ○「SDGs」「多様性」「キャリア」の３テーマについてユニット学習が用意され、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができる工夫がされている。
特色	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○各学年巻頭に「さまざまなテーマで学ぼう」、巻末に「未来への扉」「学びの記録」「学びのメモ」を設け、生徒が自身の成長を振り返り、課題や目標を見つけることができるようになっている。 ○各学年で「自己肯定感」「認知バイアス」について取り上げ、悩みや葛藤の心の揺れ、人間関係の理解等、深く考えることができるようになっている。 <発達の段階に則しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○多様性については専門家の監修を受けて、「自分らしさを考える」「多様な姓を認め合う」「自分らしさを生かして活躍する」といったように、発達段階に合わせて系統的に取り組めるようになっている。 ○情報モラルについては、発達段階に合わせて「スマホ依存」「スマホを通じた対人関係」「発信者・受信者として」を学べるようにしている。 ○災害やコロナ禍等、被災時や有事に関する教材も用意され、そのときの行動について当事者意識をもって考えられるようになっている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○学びを可視化する思考ツールの使い方が紹介され、教科書二次元コードから思考ツールを用いたデジタルワークシートを活用することができる。
	○教科書の二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツは、動画や写真、音声、ワークシート等、多様である。 ○教科書の巻頭「道徳科で学ぶこと 考えること」で、インターネットやタブレット端末などを活用し、学びの幅をさらに広げる方法を紹介している。
	○ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインを施している。 ○教材をどれだけ読み進めているかが分かりやすくなるように、ページ数のデザインが工夫され、生徒に意欲や達成感を味わわせることが期待できる。
総括	○生徒たちの「共に生き抜く力」を育て、ウェルビーイングを実現することを大切にした教科書である。 ○いじめ防止や「いのちの教育」についても、年間を通してバランスよく配置され、自他の生命を尊重する心の育成に適した教科書である。

第２５採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（道徳科）

項目	中学校の道徳 たったいちどの、きみのみらいへ （232・あか図）	
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○ねらいがぶれないようにするために、学習活動がイメージできる授業の流れを意識した発問が設定されている。 ○「自主、自立、自由と責任」、「思いやり、感謝」、「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」の4つを重点項目とし、全学年で年間三時間ずつ配当している。 ○巻末に、学期ごと及び1年間の学習の振り返りができるワークシート「学習の記録」が用意されており、生徒が自分自身の成長に気付き、道徳的实践意欲を高められるようになっている。	
特色	内容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「キャリア」、「共に生きる社会」、「情報モラル」、「いじめ」の現代的課題について教材がユニット化され、重点的に学習を深められるよう工夫されている。 ○生命尊重といじめ防止は最重要課題としており、特にいじめ防止については、関わりの深い内容項目に配当時間を充てている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○巻頭のオリエンテーションページのタイトルが、1年「小さな勇気」、2年「自分の人生って。」、3年「自分と向き合う」と、生徒の発達段階に応じて、生き方について深く考えられるよう工夫されている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○各学年に三か所、設置されている「マイ・プラス」において、役割演技や話し合いといった活動が用意されており、生徒が多角的・多面的な視点で考えを深められるよう工夫されている。 ○教材末に「自分を見つめて考える」もしくは「いろいろな見方で考える」のいずれかの視点で発問が精選されており、主体的・対話的な学習ができるよう工夫されている。
		○二次元コードを活用して、教材に関連する動画や web リンクを参照することができるよう、教材のタイトルの下にわかりやすく配置されている。 ○3年間を通して日本の各地域のゆかりのある人物や文化が紹介されており、生徒がそれぞれの地域の良さを知ることができるようになっている。
		○色覚の違いにより学習に支障をきたすことのないよう、色の識別のみによらず、文字情報をはじめマークの形状やデザインの違いなどで必要な情報が読み取れるように配慮されている。 ○文字はユニバーサルデザインフォント使用され、視認性が高い。
	資料	○色覚の違いにより学習に支障をきたすことのないよう、色の識別のみによらず、文字情報をはじめマークの形状やデザインの違いなどで必要な情報が読み取れるように配慮されている。 ○文字はユニバーサルデザインフォント使用され、視認性が高い。
総括		○いじめ防止・人権尊重に関連する題材を多くの内容項目に配置しており、喫緊の教育的課題である「いじめ問題」を特に重要視している。 ○文字色の変更や自動読み上げ、読み上げ速度調整といった機能が充実しており、誰一人取り残さない授業を実践できる教科書といえる。

第25採択地区教科用図書採択協議会

研究調査報告書

教科名（道徳科）

項目	道徳 中学校 （233・日科）
中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○内容項目「4つの視点」を基に、発達の段階別にテーマを設けている。巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、自分との関わりについて考えられるよう工夫されている。 ○巻頭に道徳の授業の流れや今までの自分を振り返るページがあり、自己を見つめることができるよう工夫されている。 ○教材末尾の「深めよう」の問いを通して、自分の見方や考え方が変わったり深まったりすることが実感できるよう工夫されている。「ウェルビーイングカード」を活用することで、よりよく生きるための基盤となる資質を育成できるよう工夫されている。
特色	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「情報モラル」について、身近なネットトラブルから、どう身を守るかを喫緊の課題と捉え、生徒にとって現実味のある教材が工夫されている。 ○「いじめ問題」については、学校生活の中で、「いじめ」に陥りやすい場面を掲載しており、生徒が自分事として捉えられるよう工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○1年生は自己理解、2年生は自己啓発、3年生は自己実現について、それぞれのテーマに向き合う課題が設定されている。 ○教材の配置を工夫し、発達の段階や学校生活及び他教科との関連で、組み換えができるよう配慮されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○他者との話し合いを通して、当たり前を疑い、深く考えることができるような視点がもてるよう工夫されている。 ○「思考」を重視した授業展開へと転換をするために、自分自身への「問い」から、話し合いをもとに課題解決ができるよう発問が工夫されている。
	資料 ○写真やグラフから考える教材や動画や漫画を活用した教材、自分の考えを書き込む教材など、多様な教材が掲載されている。 ○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。 ○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。
	表記表現 ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が示されている。目次で現代的な課題等との関わりについて、様々なテーマで系統的に示されている。
総括	○主体的・対話的で深い学びに対応できるよう、各学年の巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、意見を伝え合える環境になるよう工夫されている。 ○社会的・文化的な多様性、多面性を意識した教材や話題の工夫がされている。

第25採択地区教科用図書採択協議会